

令和5年度伝統文化継承事業

第2回ぐんまの伝統芸能アンケート 調査結果報告書

令和6年6月

公益財団法人群馬県教育文化事業団

— 目 次 —

1 概要	1
2 調査結果	
1. 新型コロナウイルスの影響について	2
2. 現在の活動状況について	7
3. 祭り・行事の開催について	8
4. コロナ禍で、伝承に向けて新たに取組んだ活動について	16
5. 後継者育成の現状について	18
6. 5年後の活動見通しについて	24
7. 今、必要とする支援について	28
8. 活動の相談について	34
9. 活動の相談希望について	37
10. 「群馬のふるさと伝統文化」支援事業補助金について	38
11. 補助金利用の課題について	39
12. YouTube チャンネル「ぐんまアーツ」について	42
13. ぐんまアーツの動画配信について	43
14. 動画制作講座の参加について	44
15. 情報発信について	46
16. 情報発信の手段について	48
17. 今後活用したい情報発信の手段について	49
18. WEB サイト「ぐんま地域文化マップ」について	50
19. 課題・要望について	51
3 調査結果まとめ	54
4 伝統をつなぐための提案	56
5 調査協力団体	58
1. 人形芝居	58
2. 歌舞伎	58
3. 獅子舞	58
4. 神楽	59
5. 祭り囃子	59

第2回ぐんまの伝統芸能アンケート調査結果

1 概要

調査目的

コロナ禍からのリスタートとなる中で、県内伝統芸能団体の現状を把握するためアンケート調査を行い、将来につながる取り組みや支援策の基礎資料とする。

調査機関

公益財団法人群馬県教育文化事業団

調査期間

令和5年8月16日(水)～9月22日(金)

調査方法

紙面調査

- ・郵送によるアンケート配布
- ・郵送またはメールによる回答

調査対象

県内の伝統芸能団体384団体

(人形芝居、歌舞伎、獅子舞、神楽、山車または屋台がともなう祭り囃子)

有効回答数

155件(有効回収率40%)

	送付数	回答数	回答率	構成比
人形芝居	8件	8件	100%	4%
歌舞伎	6件	3件	50%	2%
獅子舞	164件	57件	35%	37%
神楽	117件	45件	39%	29%
祭り囃子	89件	42件	47%	28%
合計	384件	155件	40%	100%

〔備考〕

令和3年度に実施した「ぐんまの伝統芸能アンケート調査(以下、第1回アンケート)」では、県内の伝統芸能団体(409団体)にアンケート調査を送付し、213団体から回答を得た。第2回調査では、担い手不足等から活動を休止・中断する団体が増え、前回より25団体減の384団体にアンケートを送付し、また回答率も40%に下がるなど、新型コロナウイルス感染症が県内の伝統芸能団体に大きな影響を与えたことがわかる。

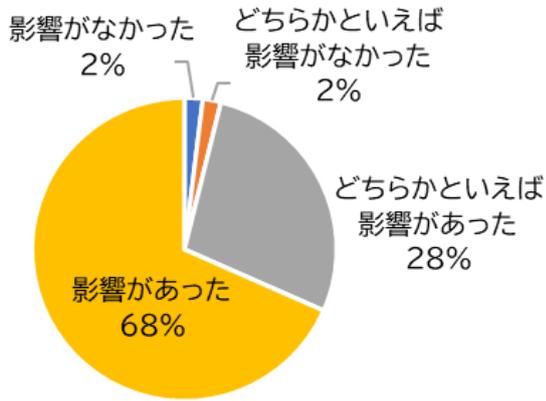
ぐんまの伝統芸能 ▶
アンケート調査結果
(令和3年度実施)



2 調査結果

1. 新型コロナウイルスの影響について 【調査項目 Q1/1つ選択回答 n=155 団体】

新型コロナウイルス感染症の拡大（令和2年1月）から令和5年5月8日までの約3年半の間に、感染症の影響が団体活動にありましたか？



新型コロナウイルスの団体活動への影響について尋ねたところ、96%が「影響があった」（影響があった・どちらかといえば影響があった）、4%が「影響がなかった」（影響がなかった・どちらかといえば影響がなかった）であった。本アンケート調査から、あらためてコロナ禍が県内の伝統芸能団体の活動に大きな影響を与えていたことを再認識することができた。

第1回アンケート（令和3年度実施）にて「新型コロナウイルスの影響」について尋ねたところ、「影響がある」が97%、「影響がない」が3%であった。なお、「影響がない」と回答した団体は、令和3年度（5団体）と5年度（6団体）では異なる。

	計					計	
	人形芝居	歌舞伎	獅子舞	神楽	祭り囃子		
影響がなかった	1団体	0団体	1団体	0団体	1団体	3団体	2%
どちらかといえば影響がなかった	0団体	0団体	1団体	2団体	0団体	3団体	2%
どちらかといえば影響があった	1団体	0団体	17団体	13団体	12団体	43団体	28%
影響があった	6団体	3団体	38団体	30団体	29団体	106団体	68%
計	8団体	3団体	57団体	45団体	42団体	155団体	100%

影響がなかった 4%(6 団体)
影響があった 96%(149 団体)

コロナ禍での具体的な活動影響（できる限り原文のまま記載する）

■人形芝居

○活動への影響

- ・定期公演の中止
- ・令和2年～4年度活動休止
- ・稽古回数の減少
- ・感染を避けるため公演回数の減少
- ・学校などの伝統芸能教室中止

■歌舞伎

○活動への影響

- ・公演の中止。2年間ほとんど活動できなかった。
- ・令和2年度は活動中止（練習、公演）。令和3年度に練習再開するもコロナで練習の約半分が中止。

■獅子舞

○活動への影響

- ・2年間の活動中止
- ・活動（練習・公演）の縮小・中止（ほか4団体）
- ・地元祭例奉納の中止（ほか4団体）
- ・神事のみ開催（ほか2団体）
- ・令和2、3年はコロナのため中断、令和4年は開催（ほか1団体）
- ・会員全員での練習ができなく、踊り、笛を維持するのが大変である。
- ・発表の場が制限。神社の奉納は行っていたが、他の発表会はほぼ中止であった。
- ・それまで定期的に行ってきた稽古が中断。通年で月に2回実施していた稽古ができなかった。
- ・中止により祭り前（1週間）の練習もなくなり、会員（囃子方）2名死去で、笛・太鼓の育成不足
- ・行事が例年通り実行できなかった。練習が予定通り行えなかった（県の警戒度に振り回され、延期や変更が常だった）。
- ・神社の例大祭が役員のみでの神事となり、通常の獅子舞奉納ができない状態となり、令和2年秋の獅子舞奉納は中止となった。しかし、獅子舞奉納が途切れてしまうため、神社側にお願ひし、令和3年春より神事終了後に、獅子舞の演目を減らし、無観客で奉納のみさせてもらった。また、練習の回数を減らし時間も短縮、人数も最小限にして感染対策を取りながら行った。令和5年春季例大祭も行われなかったが、獅子舞はほぼ通常通りの奉納が行えた。
- ・団体での活動は町内的にしていない。
- ・団体活動の制限（新年会などが開催できず。またそれらにともなう懇親会も開催できなかった。町内獅子舞団体との交流もできなかった）
- ・毎年4/24・25子ども祭、本祭をしていたが、3年以上活動なし。6年度は実行したい。
- ・子ども達の練習が全て中止
- ・子ども達の獅子舞練習が3年間まったくできなかった。
- ・3年半の間に練習、神社への奉納が一切できず子ども達が踊りを忘れてしまう。
- ・コロナ禍の3年間は秋季大祭の中止でさらさら子の練習、奉納等ができなく、経験者がいなくなり今年はゼロからのスタートとなった。新嘗祭において八幡宮への奉納は少人数で実施してきた。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響で練習場所が制約され、また、舞子の低年齢化もあり、活動ができなかった。
- ・秋祭りが令和2、3年と2年間中止となり、子ども達の練習も2年間中止となった。このことにより本来4年生から練習に参加できる子どもたちは、令和4年の6年生からの練習参加となった。
- ・影響があり、地域の芸能祭や地元の祭りが中止となった。

○活動の継続・工夫

- ・いつの日か出演機会があることを祈りつつ、月2回の稽古を継続してまいりました。
- ・この3年間も従来通り地元の秋の大祭に休まず、獅子舞の奉納を実施してきました。
- ・練習を継続し、今年度は新規加入者（小学生高学年5名）が参加する事になりました。
- ・人員増を目指してリストアップした人達の加入を目的に訪問。3名の入会が決まった。
- ・5、6の演目があるが、40年程演じていない「六人舞」に挑戦しようと計画
- ・役者（若い人）に参加して頂くこと。役の受け持ちを複数とできないか検討中
- ・笛を希望する人に講習会を継続実施。コロナ前に比べて4名の人員を確保できた（12名→16名）。
- ・コロナが5類に指定される前年（令和4年）の4月からけいこの場・時間を変更して練習を再開した。従来は日曜日の夜、町内の公民館で練習したが、令和4年4月からは舞い手は全員マスクを着用して屋外（神社の庭）にて午後にはけいこした。

■神楽

○活動への影響

- ・祭行事の2年中止（ほか6団体）
- ・3年間の活動中止（ほか5団体）
- ・神事の中止（ほか1団体）
- ・区の祭が中止になった。産業文化祭も中止になった。
- ・練習も全くできなかつたため、コロナ以前の演目が発表できない。
- ・練習及び行事に感染対策が必要（時間短縮等）
- ・練習も控えたし、舞う所もなかつた。メンバーも何人か亡くなった。
- ・座数が減った。時短になった。縁起物、投げ物ができなかつた。
- ・年齢、死亡、年代疾患等で減少が大きいです。広域より公募中
- ・演じる場が失われ、それに向けての練習もやらなくなつた。後継者の育成の遅れが出て、デビューに至らなかつた。
- ・新型コロナウイルス拡大中は神社役員のみで神事だけを行い、春秋の大祭は行わず我々太々神楽の奉納もできなかつた。
- ・今後、継続するか、神楽を中止し、お祭りだけ開催するか。今秋以降総代表と話し合い、決定する予定です。
- ・本年から活動再開したが、新型コロナウイルス罹患者を出してしまい防止対策に甘さがあった。
- ・コロナ禍の安定に伴い、春秋の例大祭も活発に再開される中、近隣の由緒ある3カ所の神社では集客、参拝者の減少を理由に神主、総代のみの式典で済ませ、大事な直会、余興、出店等は中止。新たな神事の在り方に不安が募ります。
- ・中学生を練習に参加させることができません。
- ・コロナの間、会員の小中学生が塾や部活などで多忙となり会から脱退した。
- ・御神楽は小学生を中心に獅子頭をかぶり、各家庭を訪問して邪鬼を祓うもので、新型コロナウイルス感染症で全面的に活動が停止となった。また、少子化により子どもが少なくなり、現在の手法では無理なため、お正月のどんどん焼きの時の参加者に大人が獅子頭を振る状態です。
- ・令和2、3年の春秋の神社のお祭りでは、神主と総代の方々の式典のみで神楽出演は中止となりました。それに準じて月に2回の神楽の稽古も中止に致しました。令和4年の春祭りでは、神社からの要請もあり、お囃子だけの出演をして、秋祭り以降は以前の様な神楽出演となりました。

○活動の継続・工夫

- ・出演先の8割から中止の決定があったが、当会はコロナ禍にも負けず、この期間も定期練習に取り組んできました。
- ・年々神楽師等も年齢も増してきて、特に笛、太鼓については今後とも不安が多いため、昨年の秋以来、安中総合学園と話し合い、太鼓・笛について学園に教えに行き、今年春にはコラボして一部上演することができ、大変心強く感じ、今後も進めていきたい。
- ・地域外より途絶えている神楽を教えてくれと言うので、市内の神楽関係に相談したらそれは良いと思うということなので頑張るところです。
- ・9/3 明治神宮「日本の大祭」の出演、7/16「50周年復活記念大会」を当保存会で企画、開催した。
- ・コロナ情勢に配慮した対策ではなかったが、タイミング的に温めてきた計画を実行。保存会員後継者不足や、祭り当番等で例大祭に参加する神社奉賛会の高齢化懸案事項があった原因のひとつに、大祭の指定期日（4月8日）があったとの因果分析し、歴史的に意味ある4月8日を継承して、「4月8日に近い日曜日」に変更

■祭り囃子

○活動への影響

- ・ブランクがあり全員の熱が冷めた。
- ・練習ができず、継承が難しくなった。
- ・諸行事が延期か中止になった。（ほか1団体）
- ・夏祭り・納涼祭が中止。初午祭は縮小
- ・当団体は、祭りを中心に活動しています。夏祭りもコロナ禍中止及び縮小を余儀なくされ、活動ができず大きな影響がありました。
- ・平成30年に実施後、台風による大雨とコロナの影響で中止となり、令和4年10月に規模が縮小し、1日限りの実施となりました。
- ・継続していた練習を中断せざるを得なかった。
- ・町内発表する納涼祭が中止になり練習が中止になってしまった。
- ・3年間活動ができなかった。（ほか4団体）
- ・令和2、3年の2年間全て各祭り関係実施せず。（ほか1団体）
- ・令和2、3年は神事（祈願祭）のみ施行、令和4年は縮小開催した。（ほか1団体）
- ・令和2、3年と祭りを中止し、子ども会の練習も中止した。令和4年度は希望者を募集し、中学生・高校生・大学生と一般の方、他地域の人を加えて練習をし、感染予防をして縮小開催しました。今年はお祭り広場も開催した。
- ・2年間は活動休止。去年は屋台庫前で有志による演奏を行う。今年は全面的に活動を再開した。
- ・令和2、3年は練習・活動はできませんでした。令和4年からは感染対策を実施し練習再開（月2回）。祭りは中止になったが、区内単独で感染対策を実施して半日間実施した。
- ・本年、祇園祭を実施したが、4年ぶりのため、準備に時間を要した。
- ・長期間、囃子の練習を行っていなかったため、スキルが下がった。演奏活動もできなかったため、囃子（祭り）に対する思い（熱量）が下がり祭りが中止になっても残念な気持ちが薄れた。
- ・夏休みこども屋台練習ができなかった。
- ・2年のブランクは子ども達の囃子練習への影響が大きい。
- ・中止に伴う相談会で動画配信を企画したが、コロナ感染で集まれず行っていない。
- ・後継者の育成に影響があった。3年間練習ができなかったため、今年度の練習が大変でした。

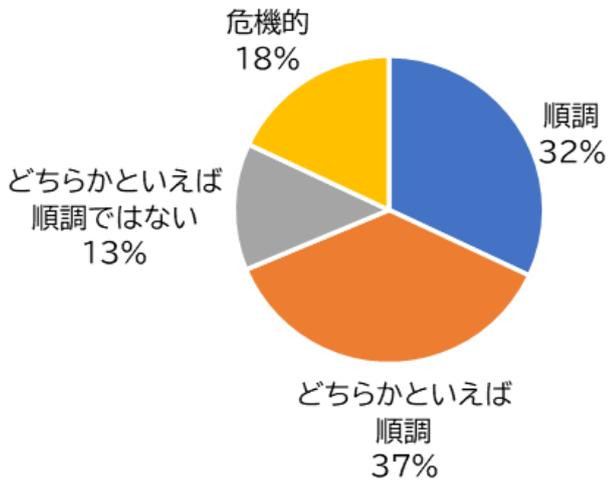
- ・祭りの参加辞退、地元納涼祭の開催中止、子ども達への指導を中断。難しい演目をできる子どもがいなくなった。
- ・令和2、3年はコロナ禍よりもお囃子の練習に参加する子どもが約1/3に減少した。
令和4年の囃子練習はコロナ禍により期間途中中断。各地域祭り中止の中、地元の祭り開催実施
- ・令和2、3年度はまったく活動できなかった。令和4年度は指導者と一部の子どものみで活動した。5年度も現在まで指導者と一部の子どものみで活動している。9/9祭りの実施が正式に決まったので、指導者と子ども全員で活動する予定です。
- ・令和2、3年度と毎年夏休み期間中に実施している子どもを中心とした屋台囃子の稽古会が2年間実施できず、空白期間ができ子どもたちへの伝承に多少なりとも影響があった様に思われます（中学生になるとほとんどの子どもが参加しなくなってしまうため5、6年生が2年間稽古する機会を失われたのは残念）。
- ・祭りが中止となり、子ども達にお囃子を教えることができないため、今年は4年ぶりに祭りが再開することになったが、小学生を集めて練習を予定しても、なかなか子ども達が集まらない。4年前に頑張っていた子どもたちは、卒業してしまい人数を集めるのが大変でした。
- ・令和2、3年はコロナ対策のため開催されなかった。その間、お囃子練習の時間もなく、小中学生などへの継承ができなかった。通常でも少子高齢化で参加者が激減している中で2年間のブランクは大きく、モチベーションも上がらずの状態である。
- ・コロナ禍の過去4年間で地域の文化活動が停滞、各種サークルが減少または消滅し、高齢化も急速に進行。子ども達は、学習塾やスポーツクラブに傾き保護者含め地域活動への参加意識が希薄化しています。コロナ禍が鎮静化し「こんな時だからこそ」と、昨年プレ開催として「ふれあい祭り」を実施。20年ぶりに3台の屋台を曳き出しました。高齢者は20年ぶりの屋台囃子に感動。隣近所の皆さんの語らいや子どもから高齢者までのふれあいを楽しむことができました。今年は11月4日、町内の広場に4台の屋台を中心とした祭を計画。住民総出でふれあい、住民皆様への屋台文化の披露と技能の継承ができる機会を設ける予定です。ただし現在は幸いに他所からの転入により活動が可能ですが、地域に小学生がいなくなれば、その時点で子どもたちへの技能の伝承と活動は不可能になるでしょう。また、若い世代（30、40代）が活動に参加し伝承しなければ、残るのは倉庫に収納された屋台のみとなってしまいます。活動行事を増やせば役員は敬遠。一部の熱心な方に依存せざるを得ないのが実状です。

○活動の継続・工夫

- ・まつりの開催時期。温暖化で夏まつりは見直すことも必要と思う（夏→秋へ）。
- ・特別に実施していないが、子どもからお年寄りまで区民には参加を呼びかけている。
- ・子どものお囃子教室を開催したところ親子での参加が多く親子教室へと発展した（笛に対する関心が高まり、「笛の会」への参加者が増加）。

2. 現在の活動状況について 【調査項目 Q2/1 つ選択回答 n=150 団体】

コロナ禍の影響で約3年半の間は、行事の中止や規模を縮小して多くの団体活動が行われていましたが、現在（令和5年度）の団体活動は順調ですか？



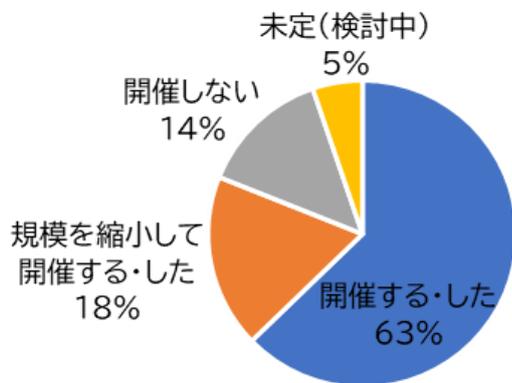
新型コロナウイルスの感染拡大によってマスク着用やソーシャルディスタンスの確保、こまめな手洗い・手指の消毒などこれまでとは違った新しい生活様式が求められ、様々な社会活動の制約を受けた。そのような中、伝統芸能団体の活動もコロナ禍の制約を受け、行事の中止や規模の縮小などの影響があった。新型コロナウイルス感染症の法律上の扱いが令和5年5月8日からインフルエンザと同じ扱いに引き下げられ、令和5年度は「リスタート」の年となり、各団体に現在の活動状況について尋ねた。69%は「順調」（順調・どちらかといえば順調）であり、コロナ禍の影響はあったものの以前のように伝統芸能団体の活動も「順調」に行えるようになってきている。一方で、31%は活動が「順調ではない」状況にあることが確認できる。

以後、【活動が順調な団体】と【活動が順調ではない団体】に区分して有効回答を全体集計とは別に表示する。

	計					計	割合	
	人形芝居	歌舞伎	獅子舞	神楽	祭り囃子			
順調である	5団体	1団体	13団体	9団体	20団体	48団体	32%	順調 69%(103 団体) 【活動が順調な団体】
どちらかといえば順調	2団体	0団体	17団体	20団体	16団体	55団体	37%	
どちらかといえば順調ではない	0団体	1団体	9団体	7団体	3団体	20団体	13%	順調ではない 31%(47 団体) 【活動が順調ではない団体】
危機的である	1団体	1団体	15団体	7団体	3団体	27団体	18%	
計	8団体	3団体	54団体	43団体	42団体	150団体	100%	

3. 祭り・行事の開催について【調査項目 Q2-②/1 つ選択回答 n=153 団体】

令和5年度は祭り・行事を開催しますか？開催された場合は、祭り・行事の評価や感想等をご記入ください。



リスタートの年となった令和5年度の祭り・行事の開催状況について団体に尋ねたところ、81%が「開催する・した」（「開催する・した」、「規模を縮小して開催する・した」）、14%は「開催しない」、5%は「未定（検討中）」と回答している。

	計					計	
	人形芝居	歌舞伎	獅子舞	神楽	祭り囃子		
開催する・した	5団体	2団体	29団体	25団体	35団体	96団体	63%
規模を縮小して開催する・した	1団体	0団体	11団体	10団体	6団体	28団体	18%
開催しない	1団体	1団体	13団体	5団体	1団体	21団体	14%
未定(検討中)	1団体	0団体	4団体	3団体	0団体	8団体	5%
計	8団体	3団体	57団体	43団体	42団体	153団体	100%

開催する・した
81%(124 団体)

開催しない・未定
19%(29 団体)

	活動が順調な団体		活動が順調ではない団体		回答なし	計	計
	団体数	割合	団体数	割合			
開催する・した	83 団体	81%	11 団体	24%	2 団体	96 団体	63%
規模を縮小して開催する・した	16 団体	16%	11 団体	23%	1 団体	28 団体	18%
開催しない	2 団体	2%	18 団体	38%	1 団体	21 団体	14%
未定(検討中)	1 団体	1%	7 団体	15%	0 団体	8 団体	5%
計	102 団体	100%	47 団体	100%	4 団体	153 団体	100%

第1回アンケート（令和3年度実施）にて「コロナ感染症の蔓延による団体活動の具体的な影響」について尋ねたところ、「祭り行事の縮小、延期・中止」、「集まりや練習機会の減少・中止」、次いで「後継者の育成困難」であった。令和3年度は、「十分な感染予防対策が難しいこと」や「活動自体の感染リスクが高く不安であること」等を主な理由として活動の休止・縮小を決めていたが、令和5年度は新型コロナウイルスの法律上の扱いも引き下がり、各地の伝統芸能の活動が再開し、コロナ禍以前の団体活動に戻る動きが加速している。

開催（予定）の祭り・行事の評価や感想（できる限り原文のまま記載する）

■人形芝居

- ・ 4/3 地区の春祭り奉納公演（沼須人形／沼田市）
- ・ 5/13 ユネスコ未来遺産に登録され記念公演（沼須人形／沼田市）
- ・ 7/29 地元中央ロータリー総会・招待公演（沼須人形／沼田市）
- ・ 10月 込皆戸白山神社秋期例祭奉納上演（込皆戸三番叟／前橋市）
- ・ 10/14 津久田人形芝居櫻座生誕 300 年祭（津久田人形操作伝承委員会／渋川市）
- ・ 10/15 先倉神社奉納公演（八城人形／安中市）
- ・ 10/21 古典の日制定記念「人形芝居公演」出演（沼須人形・下牧人形・尻高人形・八城人形／中之条町文化会館）
- ・ 11/17 小学校伝統芸能教室（尻高人形／高山村）
- ・ 11/23 定期公演（尻高人形／高山村）

■歌舞伎

- ・ 11/9 渋川市民総合文化祭歌舞伎発表会（渋川子ども歌舞伎・半田歌舞伎坂東座ほか／赤城公民館）
→（互いに）他の団体に応援に行く。
- ・ 2/25 令和 5 年度ぐんま伝統歌舞伎の祭典（渋川子ども歌舞伎・半田歌舞伎ほか／吉岡町文化センター）

■獅子舞

- ・ 4月 諏訪神社奉納獅子舞（川浦獅子舞／高崎市）
→地域をあたたかい風が吹き抜けたようであった。全員が続けていく心意気を持った。
- ・ 4月 赤城神社奉納（国定赤城神社獅子舞／伊勢崎市）
- ・ 4月第 1 日曜日 美久里浅間神社春祭り（神田獅子舞／藤岡市）
- ・ 4月第 2 日曜日 春祭り（箱田獅子舞／渋川市）
- ・ 4/2 下八幡の春祭り（下八幡宮獅子舞／吉岡町）
→以前のように獅子舞の奉納ができた。
- ・ 4/2 三宮神社春季例大祭（溝祭獅子舞／吉岡町）
→令和 5 年 2、3 月の練習は子ども達の参加者が急増。嬉しい限りであるが練習不足のまま春祭りでの奉納となった。また、笛担当者も増えた。
- ・ 4/2 春祭り（馬庭飯玉神社獅子舞／高崎市）→ 例年同様の活動が実施できた。
- ・ 4/8 春祭り飯玉神社、飯塚夫婦薬師如来・弁財天への奉納（飯塚町獅子舞／高崎市）
→コロナによる中断前とほぼ同じように復活した。
- ・ 4/16 行幸田甲波宿禰神社春季例大祭（行幸田甲波宿禰神社獅子舞／渋川市）
→規模を縮小し神事及び獅子舞の奉納のみ実施。同日、行幸田天台宗光蓮寺の荒神様へ時間を短縮して奉納。
- ・ 5/3 春大祭（駒岩獅子舞／中之条町）
- ・ 5/28 吉井民俗芸能大会（馬庭飯玉神社獅子舞／高崎市）
→女獅子隠しを演じ高評価だった
- ・ 6月 貫前神社伝統芸能演舞会（稻荷下り葉流宇田獅子舞／富岡市）
→遠方から見に来てくれた方がいて、とても嬉しくありがたい気分になりました。
- ・ 7/15 祭り（飯野本村獅子舞／板倉町）
- ・ 7/29 境ふるさと祭り（東新井獅子舞／伊勢崎市）
- ・ 8/12 溝祭自治会夏祭りへの参加（溝祭三宮神社獅子舞／吉岡町）

- ・ 9/2 「受け継がれる群馬の獅子舞」出演（羽場日枝神社獅子舞／みなかみ町）
→初吉利だけの演目でしたが大太鼓女性2名（笛）の初披露で不安であったが無事終わり、観客の前で4年ぶりにできた事に保存会一同感謝感激感無量でした。
- ・ 9/3 高崎市獅子舞大会（宮谷戸獅子舞・馬庭飯玉神社獅子・舞下滝町獅子舞ほか／榛名文化会館）
- ・ 9/10 奉納予定（下沢渡獅子連／中之条町）
→会議をして参加人数がギリギリ（踊り手6人、笛3人）でしたが、実施した方が良いとの意見があり実施予定です。
- ・ 9/10 境郷土芸能ふれあい発表会（参加予定）（東新井獅子舞／伊勢崎市）
- ・ 9/16・17 新井八幡宮大祭（新井八幡宮獅子舞／太田市）
- ・ 9/30・10/1 宵祭り・本祭り（諏訪神社秋季例大祭）（立石獅子舞／前橋市）
- ・ 10月 赤城神社奉納（国定赤城神社奉納獅子舞／伊勢崎市）
- ・ 10月 神守寺、宇田祭り（稲荷下り葉流宇田獅子舞／富岡市）
- ・ 10月第3土・日曜 平地神社秋祭り（下大塚獅子舞／藤岡市）
- ・ 10/1 前田原秋まつり（前田原獅子舞／桐生市）
- ・ 10/8 諏訪神社獅子舞奉納（駒寄一五沢獅子舞／高崎市）
- ・ 10/8 台新田稲荷神社秋の大祭（台新田町獅子舞／高崎市）
→獅子の行進のみ行う予定。
- ・ 10/8 地区芸能祭（剣崎町獅子舞／高崎市）
- ・ 10/9 金古諏訪神社秋季例大祭（諏訪土俵獅子舞／高崎市）
- ・ 10/12・14 村祭り（中野殿獅子舞／安中市）
- ・ 10/14・15 秋祭り（馬庭飯玉神社獅子舞／高崎市）
- ・ 10/14・15 千本木神社秋祭り（千本木龍頭神舞／伊勢崎市）
- ・ 10/15 大前田町秋祭り（諏訪神社にて開催予定）（大前田諏訪神社獅子舞／前橋市）
- ・ 10/15 五霊神社奉納（貝沢西組獅子舞／高崎市）
- ・ 10/15 赤堀八幡宮秋季大祭（新田赤堀獅子舞／太田市）
- ・ 10/15 秋祭り（八坂神社と熊野神社、諏訪神社）（上増田獅子舞保存会／安中市）
- ・ 10/15 例大祭（二ツ石組獅子舞／甘楽町）
- ・ 10/15 地区の秋祭り（下高尾獅子舞／富岡市）
- ・ 10/15 秋季例大祭（天引獅子神楽舞／甘楽町）
- ・ 10月19日に近い日曜日（寺山獅子舞／藤岡市）
→今年は土師神社の秋の大祭にはコロナ以前と同様に獅子舞の他、花馬等も実施されるとのこと。
賑やかな祭りとなることを期待しています。
- ・ 10/21 南西神社例大祭（宵祭り）（上南蛇井獅子舞／富岡市）
- ・ 10/21 国定赤城神社秋祭り（国定赤城神社奉納獅子舞／伊勢崎市）
- ・ 10/21 磯部温泉街、村の神社、道祖神、地元公会堂等（上磯部獅子舞／安中市）
- ・ 10/22 赤城神社、安中市の恵の湯、ホテル磯部ガーデン、小島屋旅館等（上磯部獅子舞／安中市）
- ・ 10/22 東部地区文化祭（貝沢西組獅子舞／高崎市）
- ・ 10/22 はるなふるさと祭り（神山下町・新井田中獅子舞、宮谷戸獅子舞／高崎市）
- ・ 10/29 「碓氷の関所祭り400年記念」出演（上増田獅子舞／安中市）
- ・ 10/30 倉賀野小学校ひこばえ祭り（田子屋獅子舞／高崎市）
- ・ 11月 一ノ宮地区伝統芸能祭（稲荷下り葉流宇田獅子舞／富岡市）
- ・ 11/3 吉岡町文化祭への出演（下八幡宮獅子舞／吉岡町）

- ・ 11/3 民俗芸能大会（甘楽町産業文化祭）（那須の獅子舞・天引獅子神楽舞・二ツ石組獅子舞ほか／甘楽町）
- ・ 11/3 八幡八幡宮例大祭へ獅子舞奉納（剣崎町獅子舞／高崎市）
- ・ 11/5 村祭り（宮谷戸獅子舞／高崎市）
- ・ 11/5 富岡伝統芸能祭り（中里獅子舞／富岡市）
- ・ 11/12 畔宇治神社秋季例大祭獅子舞奉納（大戸獅子舞／東吾妻町）
- ・ 11/18 賀茂神社奉納（新井八幡宮獅子舞／太田市）
- ・ 11/19 古賀良神社秋季例大祭獅子舞奉納（大戸獅子舞／東吾妻町）
- ・ 11/19 東新井ふるさと祭り（予定）（東新井獅子舞／伊勢崎市）
- ・ 11/26 高崎市民俗芸能祭（下滝町獅子舞／高崎市）
- ・ 3/15 日に近い日曜日 春祭り（森獅子舞／藤岡市）
→祭り当日は地元の人や他市や他県から約 200 人が来る。
- ・ 3/31 阿夫利神社春例大祭（多比良谷獅子舞／高崎市）

（その他）

- ・ 地元小学校が社会科のための勉強会（歴史・道具）（剣崎町獅子舞／高崎市）
- ・ あずま夏祭り、国定夏祭り、東公民館でふる里学習に出演（国定赤城神社奉納獅子舞／伊勢崎市）

■神楽

- ・ 4 月 駒形神例大祭（駒形町太々神楽／前橋市）
- ・ 4 月 春祭り（八幡神社太々神楽／榛東村） → 春祭りに神楽を奉納出来ました。
- ・ 4 月 春祭り（三島鳥頭神社太々神楽／東吾妻町）
→規模を縮小して開催。コロナ前は 12 座ほど舞う。令和 5 年春は 6 座（神社からの要請待ち）
- ・ 4 月第 2 日曜日 神楽奉納（諏訪神社太々神楽／中之条町）
- ・ 4/1 咲前神社春の祭典（鷲宮太々神楽／安中市）
→周りの関係者や保存会、神楽師より、このまま中止にしておく今後中断してしまうとの声もあり、面や衣装が重複しない舞のみ実施した。
- ・ 4/2 春期例大祭（八幡八幡宮太々神楽／高崎市）
- ・ 4/2 神楽奉納（鬼石神社太々神楽／藤岡市）
→内容を少し減らして実施した。2 年あけた割には何とかできたと思う。
- ・ 4/2 春季例大祭（植野稻荷神社太々神楽／前橋市）
→アルコールを含む接待を中止した以外は従前通り開催。久しぶり開催で大盛況。
- ・ 4/3 玉村火雷神社奉納（上新田町雷電神社太々神楽／前橋市）
- ・ 4/3 伊勢町伊勢宮春季例大祭（伊勢町郷土芸能保存会／中之条町）
→面を共有することがないよう出演者・演目を調整
- ・ 4/8 に近い土日 神楽奉納（吉岡神社神楽会／東吾妻町）
- ・ 4/9 雷電神社例大祭（上新田町雷電神社太々神楽／前橋市）
→4 年ぶり開催効果によるものか、指定期日（4/8）から 4/8 に近い日曜日への変更効果なのかは、初年度時点では分析できないが、以前にも増して人出は賑やかであった。
- ・ 4/9 丹生神社奉納（丹生神社神楽舞子連／藤岡市）
→氏子の集まりが少なかった。
- ・ 4/9 春祭り（烏子稻荷神社太々神楽／高崎市）
→感染に注意して対策をする。
- ・ 4/14・15 賀茂神社春季例大祭（賀茂神社太々神楽／桐生市）

- 神楽の演目はうまく演じることはできましたが、天気が雨のためお客も少なく残念でした。
- 4/15 玉村八幡宮春祭り (上新田町雷電神社太々神楽/前橋市)
 - 4/15 春季大祭 (矢倉鳥頭神社太々神楽/中之条町)
→4年ぶりに再開したが、直前日に不幸があり、関係者が出られないで半数人で太々神楽を
実行した。祭典は出来た。
 - 4/16 春季例大祭 (金光山白倉神社太々神楽/甘楽町)
→計画通り開催され、大変良かったと感じている。
 - 4/19 春季大祭 (倉賀野神社附属太々神楽/高崎市)
 - 5月 ロータリークラブ総会出演 (天引諏訪神社獅子神楽/甘楽町)
→地元には伝統芸能があるよと皆様に知ってもらう機会を授かりました。
 - 5月 春祭り (熊野講社太々神楽/東吾妻町)
→規模を縮小して開催。コロナ前は12座ほど舞いましたが6座でした。
 - 5/3 桃山稲荷神社春季例大祭 (金古諏訪神社神楽/高崎市)
→限られた人数であったがなんとか活動できた。
 - 5/3 春日神社太々神楽奉納 (春日神社太々神楽/前橋市)
→久しぶりに祭りが開催されたため多くの方が集まりました。
 - 5/5 神楽奉納 (粟沢武尊神社太々神楽/みなかみ町)
 - 5/5 三夜沢赤城神社太々神楽 (三夜沢赤城神社太々神楽/前橋市)
→奉納演目数の減 (前回12座・今年8座)。観客数はコロナ前 (令和元年) とほぼ同数。
 - 5/7 「藤岡市郷土芸能鑑賞会」参加 (本郷下郷太々神楽/藤岡市)
 - 7/22 夏越祭 (高鳥天満宮太々の会/板倉町)
 - 8/6 乃久里神社祭典 (乃久里神楽保存会/上野村)
→例年より祭り参加者が少なく感じた。
 - 8/19 納涼祭 (吉田西里神楽/大泉町)
→コロナ緩和に伴い、神楽披露。囃子、踊り手が居なくてにわか仕立てでかろうじて演じた。
 - 8/20 かみつけの里夏祭り (金古諏訪神社神楽/高崎市)
→限られた人数であったがなんとか活動できた。
 - 9/18 例大祭 (中之条伊勢宮芸能保存会/中之条町)
 - 9/24 秋祭り (下折田太々神楽/中之条町)
→縮小して実施。参集者は氏子役員及び関係者のみ。
 - 10月 駒形神例大祭 (駒形町太々神楽/前橋市)
 - 10/1 中之条郷土芸能発表会 (下折田太々神楽/中之条町)
 - 10/9 企業感謝デー (里神楽獅子舞/邑楽町)
 - 10/14・15 賀茂神社秋季例大祭 (予定) (賀茂神社太々神楽/桐生市)
 - 10/15 神明宮大祭 (里神楽獅子舞/邑楽町)
 - 10/15 土塩神明宮で奉納 (予定) (土塩三区太神楽/安中市)
 - 10/15 区の秋祭り (大山神楽/甘楽町)
 - 10/15 秋祭り (天引諏訪神社獅子神楽舞/甘楽町)
 - 10/19 秋季大祭 (倉賀野神社附属太々神楽/高崎市)
 - 10/29 碓氷の関所祭り 400年記念 (土塩三区太神楽/安中市)
 - 11月 秋祭り (三島鳥頭神社太々神楽/東吾妻町)
→規模を縮小して開催。コロナ前は12座ほど舞う秋は4座舞う。

- ・11月 子ども伝統芸能教室（高鳥天満宮太々の会／板倉町）
- ・11/3 秋期大祭（八幡八幡宮大々神楽／高崎市）
- ・11/3 甘楽町産業文化祭（大山神楽・天引諏訪神社獅子神楽舞／甘楽町）
- ・11/8に近い土日 神楽奉納（吉岡神社／東吾妻町）
- ・11/15 産業祭（里神楽獅子舞／邑楽町）
- ・11/19・20 恵比寿講（里神楽獅子舞／邑楽町）
- ・1/1 元旦初奉納（高鳥天満宮太々の会／板倉町）
- ・1/1 元旦神楽（烏子稲荷神社太々神楽／高崎市）
- ・1/2 新年大祭（八幡八幡宮大々神楽／高崎市）
- ・2月第3日曜日 例大祭（高鳥天満宮太々の会／板倉町）
- ・3月 上信越自動車道甘楽スマートインター開通式（天引諏訪神社獅子神楽舞／甘楽町）
- ・3月 春祭り（薄根太々神楽硯田／沼田市）
→コロナ禍ですが、硯田天神様奉納は中止せず3、4演目実施。広報活動なしで観客はなし。
- ・3/19 土師神社春祭り（本郷下郷太々神楽／藤岡市）→例年行っている演目を全て行えた。

（その他）

- ・お正月のどんどん焼き終了後に、集落センターに集合し、2班に別れて家庭訪問を行うのが従来の仕方であったが、少子化で子どもの参加が見込めず、当分の間どんどん焼きの参加者に邪気を祓う事で行事の継続をいたしたいと考えています。（黒川御神楽／富岡市）
- ・春の祭りがいつも通り行われました。（椿名神社太々神楽／高崎市）

■祭り囃子

- ・4月 白井まつり（渋川梅笛祇園／渋川市）
→出演町内が町内の事情により出演しなかった。
- ・4月第1日曜日 神社奉納（吉岡町大久保屋台囃子／吉岡町）
→子ども数が少ないため、屋台巡行時の引手の人数確保が容易でない。
- ・5/7 藤岡市郷土芸能鑑賞会（鬼石祭囃子／藤岡市）
- ・7/1・2 中谷まつり（中谷おはやし／明和町）
- ・7/8・9 夏祭り（角淵祇園祭／玉村町）
- ・7/15・16 鬼石夏祭り（鬼石祭囃子／藤岡市）
- ・7/15・16 本町一丁目の夏祭り、館林まつりパレード（本町一丁目／館林市）
→4年ぶりの夏祭りで参加者も多く成果をあげることができた。
- ・7/22・23 世良田祇園祭り（美茂呂町屋台囃子・三ツ木祭礼囃子／伊勢崎市、下新田囃子・世良田祇園囃子・今井区おはやし・新町区囃子／太田市）
→4年ぶりに開催、大盛況であった（八坂神社、世良田公園）。
→当日は天候にも恵まれ、多くの客とともに盛大に行えた。
→屋台の上で演奏した。また、その前に新町会館で練習を行った。
→たくさんの来場者がありとてもにぎわいました。実行委員の方々ののおかげでアクシデントもなくスムーズにできました。ただ、お囃子を小学生に教える際、中止の期間が長かったため、一から教えるのにとっても苦労しました。でも、一生懸命に覚えてくれて祭りまで間に合いました。地元の祭りを体感させることができ、良かったです。
- ・7/29 茂呂地区納涼祭（南北千木町屋台囃子／伊勢崎市）
→猛暑により中止。お囃子の発表会のみ開催。子ども達、父兄の人にも喜ばれた。

- ・ 7/29 豊受まつり（馬見塚三ツ橋町屋台囃子／伊勢崎市）
→久しぶりの祭りで演奏が心配されたがしっかりでき、町内のまとまりが高まったように感じた。
- ・ 7/29・30 境ふるさとまつり（三ツ木祭礼囃子・栄町祭囃子・女塚祭礼囃子／伊勢崎市）
→暑さがひどく、一部分は行えなかった。
→まつり 2 日目は屋台の巡行は行わず縮小して実施。
- ・ 8 月 渋川まつり（渋川梅笛祇園囃子／渋川市）
- ・ 8 月上旬 原市榎下神社例大祭（原市第 2 区／安中市）
- ・ 8/1-3 大間々祇園まつり（大間々おはやし保存会連絡協議会／みどり市）
- ・ 8/5 東片貝町納涼祭（片貝町祇園囃子／前橋市）
→7/24～8/4（土日祝除く）18:30～20:00 の練習。当日は 17:00～18:00 と 19:00～20:00 の演奏。
今年 20 人の参加。3 年前は 50 人であった。
- ・ 8/5 六供町納涼祭（六供町おはやし／前橋市）
- ・ 8/5・6 中之条祇園（中之条各地区／中之条町）
- ・ 8/6 山車巡行（大友町祭り囃子／前橋市）
→暑さ対策で 7 時開始、10 時半に帰還した。
→お祭り広場も業者によるキッチンカーを活用、かき氷・焼とうもろこし・ヨーヨー釣り、綿菓子・輪投げ・ダーツ・ゴルフパター・スイカ割・福引き等盛り上がった。
- ・ 8/11・12 藤岡まつり（鷹匠町祭囃子・仲町祭囃子／藤岡市）
- ・ 8/19 水神宮祭（茂呂町一丁目屋台囃子・茂呂町二丁目屋台囃子・美茂呂町屋台囃子／伊勢崎市）
→地元の祭りなので今後もっと盛り上げたい。
→2 年間のブランクは大きく、会員の参加率が少なかった。
- ・ 8/19 地元納涼祭（宿波志江組屋台囃子／伊勢崎市）
→3 年ぶりの行事に地域の関心が高く参加者が多かった。この事から感染症の不安が大きく細かい配慮が必要となった。祭り後、参加者の中から体調不良者も一定数出たが、それでも子ども達や高齢者から「楽しかった」という言葉をもらって開催して良かったと思う。暑い時期だったため、熱中症対策として室内でエアコンを使用していた事も感染者が出てしまった原因のひとつかなと考えている。次回は涼しい時期に外で開催する等の検討が必要だと考えている。
- ・ 8/26・27 第 21 回高崎山車まつり（高崎山車祭り／高崎市）
→4 年ぶりに通常開催することができ、38 町内中 21 町内が参加し、21 台の山車が市街地を巡行した。
- ・ 9/2 飯福神社祭り（茂呂町二丁目屋台囃子・美茂呂町屋台囃子・茂呂南町屋台囃子ほか／伊勢崎市）
→伊勢崎市美茂呂町 4 町合同開催した。
→茂呂 4 区に回覧板を戸別配布したため参加者はもとより観覧者も多かった。
- ・ 9/10 さかい郷土芸能ふれあい発表会（三ツ木祭礼囃子・栄町祭囃子／伊勢崎市）
- ・ 9/18 六供町敬老芸能発表会（六供町おはやし保存会／前橋市）
- ・ 9/23 伊勢崎まつり（茂呂町一丁目・美茂呂町・南北千木町・馬見塚三ツ橋町／伊勢崎市）
→今回は町内で祭りをする。
→小中学生約 100 人参加予定
→参加できることに感謝。豊受地区からは私達の町内のみの参加となった。地域の方々の協力を得て、今後も参加していきたい。
- ・ 9/24 茂呂町一丁目夏まつり（茂呂町一丁目屋台囃子／伊勢崎市）
→子供の参加人数が少ないため、屋台の巡行時の引手の人数確保が容易でない。

- 9/30 鬼石小学校（予定）（鬼石祭囃子／藤岡市）
- 10/7・8 諏訪神社秋季例大祭（東町祭典・吉崎祭典委員会ほか／下仁田町）
- 10/7・8 住吉祭（住吉町一丁目おはやし／前橋市）
- 10/8 安中まつり（上野尻祭典委員会（上組囃子連）／安中市）
- 10/14 千本木神社秋まつり（南北千木町屋台囃子／伊勢崎市）
→小中学生約 100 人参加予定。
- 11/4 波志江町二丁目ふれあい祭り参加予定（中野面組屋台保存会／伊勢崎市）
→7月より夏休みこども屋台囃子練習実施（5回）、8月より大人屋台笛の練習教室（月1回）、
10月ふれあい祭りに向けての練習実施予定（4回）
- 11/19 伊勢崎市郷土芸能ふれあい発表会（栄町祭囃子／伊勢崎市）
- 1月 原市鳥追い祭り（原市第2区／安中市）
- 1/14 中之条鳥追祭り（中之条各地区／中之条町）

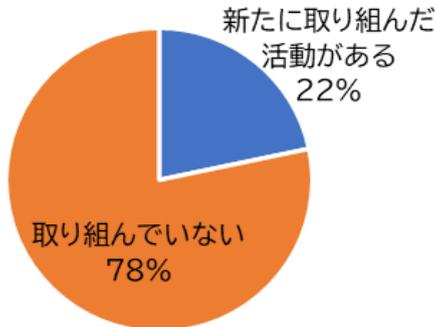
（その他）

- 天王寺宿夏祭り（祇園祭）を開催でき、山車巡行も4年ぶりに行われ、以前の状況に復活できた。
（天王元宿祇囃子／邑楽町）
- 今年度は屋台囃子稽古会を7/22～7/28にかけて実施いたしました。参加者は28人すべて子どもたちでした。昨年は26人とコロナ禍前の35、6人程に比べて少々減少しましたが、まずまずの参加人数でした。またみんな一生懸命取り組んで日に日に上手になっていく姿に、さすが子どもたちは飲み込みが早いと感心させられました。（下波志江組屋台・囃子／伊勢崎市）

4. コロナ禍で、伝承に向けて新たに取り組んだ活動について

【調査項目 Q3 / 1つ選択回答 n=152 団体】

コロナ禍の約3年半の間に、伝承に向けて新たに取り組んだ活動がありましたか？
また、具体的な内容を教えてください。



コロナ禍の約3年半の間に、伝承に向けて新たに取り組んだ活動があるのか尋ねたところ、「取り組んでいない」78%、「新たに取り組んだ活動がある」22%と回答した。

	計					計	
	人形芝居	歌舞伎	獅子舞	神楽	祭り囃子		
新たに取り組んだ活動がある	2団体	0団体	9団体	10団体	12団体	33団体	22%
取り組んでいない	6団体	3団体	47団体	33団体	30団体	119団体	78%
計	8団体	3団体	56団体	43団体	42団体	152団体	100%

	活動が順調な団体	活動が順調ではない団体	回答なし	計	
新たに取り組んだ活動がある	27 団体 26%	6 団体 13%	0 団体	33 団体	22%
取り組んでいない	75 団体 74%	40 団体 87%	4 団体	119 団体	78%
計	102 団体 100%	46 団体 100%	4 団体	152 団体	100%

コロナ禍で、伝承に向けて新たに取り組んだこと

■人形芝居

- ・大道具や小道具の整備・点検（舞台背景の補修など）
- ・人形芝居公演（今年1月に地元小学校にて生徒や関係者を対象に人形芝居を知ってもらうため）

■獅子舞

- ・会員募集
- ・ホームページ作成
- ・笛の譜面の作成
- ・笛の指導用ビデオ作成
- ・昭和58年以降の獅子舞のDVD保存
- ・YouTube作成（町作成、春祭り奉納）（ほか1団体）
- ・定期的に地域住民の勧誘（回覧板）

■神楽

- ・保存会関係資料の整理
- ・資料作成「薄根太々神楽の早わかり（小冊子）」の作成
- ・過去の資料をDVD化（奉納舞の動画等）

■祭り囃子

- ・新会員募集チラシの作成
- ・ホームページの作成（当祇園囃子を守る会）
- ・指導者の練習
- ・新曲の練習
- ・屋台囃子DVDの貸出
- ・子どもお囃子教室の開催
- ・道具の修理（山車の引き網の交換、締め太鼓3丁の張替え、太鼓杵組の修理）
- ・地元水神宮祭（灯籠流し）の紙芝居を作成（子ども達に水神宮祭の理解を高める）
- ・屋台囃子とギターのコラボおはやしロックミュージック「美茂呂チャキチン」振り付けもあり、美茂呂町まちの歌として定着していけばと思っている。

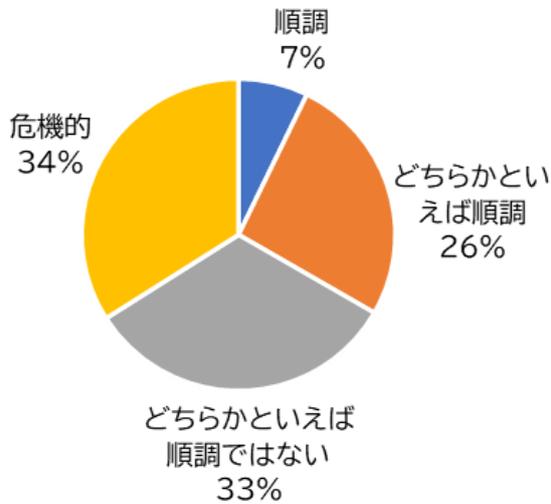
（ユーチューブにて視聴可 https://www.youtube.com/watch?v=b-_cc6ISp3Y）



▲美茂呂チャキチン

5. 後継者育成の現状について 【調査項目 Q4 / 1つ選択回答 n=153 団体】

後継者育成の現状について教えてください。また、具体的にその理由を教えてください。



後継者育成の現状について尋ねたところ、67%は「順調ではない」（危機的・どちらかといえば順調ではない）、33%は「順調」（順調・どちらかといえば順調）と回答している。

第1回アンケート（令和3年度実施）にて「後継者の育成」について尋ねたところ、「順調ではない」70%、「順調（順調・どちらかといえば順調）」30%であった。

	活動種別					計	割合	
	人形芝居	歌舞伎	獅子舞	神楽	祭り囃子			
順調である	0団体	0団体	3団体	4団体	4団体	11団体	7%	順調 33%(51団体)
どちらかといえば順調	3団体	1団体	14団体	4団体	19団体	40団体	26%	
どちらかといえば順調ではない	3団体	1団体	15団体	19団体	12団体	50団体	33%	順調ではない 67%(102団体)
危機的	2団体	2団体	25団体	16団体	7団体	52団体	34%	
計	8団体	3団体	57団体	43団体	42団体	153団体	100%	

	活動が順調な団体	活動が順調ではない団体	回答なし	計	割合
順調である	11 団体 11%	0 団体 0%	0 団体	11 団体	7%
どちらかといえば順調	34 団体 33%	5 団体 11%	1 団体	40 団体	26%
どちらかといえば順調ではない	35 団体 34%	14 団体 30%	1 団体	50 団体	33%
危機的	22 団体 22%	28 団体 59%	2 団体	52 団体	34%
計	102 団体 100%	47 団体 100%	4 団体	153 団体	100%

令和3年度、5年度も「順調ではない」が過半数以上を占めており、後継者育成は依然として厳しい状況にある。

後継者育成の現状について（できる限り原文のまま記載する）

■人形芝居

○順調

- ・新たな舞い手の育成を行っている。
- ・発表の場を広げ、若手主体の公演に取り組む。
- ・3年間休みの状態であったので、また全体で集合し最初から基本を主に練習から始まった。

○後継者不足（今後への不安）

- ・座員の高齢化と転居等により座員が減少、後継者育成が困難である。
- ・座員は高齢者が殆どであり、新規加入者も現在いない状況である。
- ・公演時の外題も座員の減少・高齢化で操作、太夫、三味線も限定されて方策も難しい。

■歌舞伎

○後継者不足（今後への不安）

- ・受け入れ体制が整っておらず、参加してもやめてしまう。
- ・座員の減少。高齢で亡くなられた方が多く、今演じる者は私だけで他の団体に入れていただいている状態です。

■獅子舞

○順調

- ・女性も参加
- ・新人加入ができた。
- ・令和5年に演者1名加入
- ・笛のメンバーが2名増えた。
- ・保存会の組織がしっかりしている。
- ・ある程度若い人も入ってくれている。
- ・舞子予定者が小学生になったので、練習が実施できるようになった。
- ・毎年子ども達が20、30人位練習に参加し、指導者も確保できている。
- ・毎年実施しているので子ども達が参加してくれる。舞は男の子、笛は女の子で両方とも幼稚園児から参加している。毎年子ども達が約50人参加している。
- ・囃子方が危機的ではあったが、月2回の練習、女性2人の加入でどちらかといえば順調である。
- ・小学児童（2人）と中学生（2人）が舞い方をして、けいこや奉納に参加している。

○後継者不足（今後への不安）

- ・舞子、笛、歌等の減少
- ・65歳以下の人は仕事があり不参加
- ・後継者なし。（ほか1団体）
- ・笛を吹く人が少ない。
- ・入ってくれる人がいない。
- ・後継する子どもがいない。
- ・子どもの踊り子が少ない。
- ・子どもが獅子舞の踊りをするが、急減少しているため。
- ・限界集落のため後継者がいない。
- ・区域の隅から隅まで探しても該当者が見当たらない。

- ・後継者の育成には取り組んではきたが結果は出ていない。
- ・会員の家庭に小学生がいなくて、引き継いでくれる人がいない。
- ・令和5年現在は小学生男女各1名です。獅子舞演舞者は中学生から高校生です。
- ・8月の夏休みに子ども達の練習を再開したが、コロナ前のように子ども達が来ない。
- ・もともと子ども達に獅子舞を舞ってもらっていたが、人数が少なかった所に、コロナで更に参加希望者がいなくなってしまった。
- ・舞の中心である小学生の参加が減るばかり。地域に子どもは大勢いるがコロナ以降、育成会の活動も低調。獅子舞に参加してくれる子どももほとんどいない。
- ・小中学生の不足で隣の地区の応援で行っていたが、今年度は地区を拡大しないと確保できない。また、学校側の協力が得られない。笛吹きの後継者がいない。
- ・以前は子ども獅子も行えていたが、少子化の影響で小学生・中学生（男子）がいない状態である。また現在若手の舞手も増えていない。
- ・子ども会育成会で小学生対象（男女）の募集を実施。保存会としても成果が出る様、全世帯に募集のチラシを配布している。
- ・決まった顔ぶれで練習しているのみ。新たに声かけをしてもなかなか人が集まらない。
- ・現在50、60歳の会員が5名いるので演じることはできていますが、10、20年後を見通すと30～50歳以下の若年会員の参加を強く希望しています。
- ・獅子頭、衣装は子ども用であり、少子高齢化で子どもがいなくなってしまった。大人の笛・太鼓も指導者がいない。
- ・笛担当者については増加傾向であるが、舞師については増加できないでいる（中年層はよいが若い人の確保ができていない）。
- ・おはやしは練習ができていますが、獅子舞についてはこれから練習計画を立てて、来年の春に開催予定だが、メンバーなどは確認できていない状況です。
- ・高齢化のため。
- ・新規会員加入がなく、指導者が高齢化
- ・舞い手は全員70歳を越え健康でも衰えてきている。
- ・笛の担当者が高齢になってきているので、若い人材がほしい。
- ・退会者が出るなか、入会が少ない。若い人の人口減少
- ・舞い方の高齢化及び地域芸能に対する希薄により数年新規加入者がなく、少数精鋭で活動

○地域の協力・伝統芸能に対する関心の薄れ

- ・協力的でない。
- ・地区の協力が無い。
- ・村の皆様の理解、協力が無い。
- ・地域の中で興味のある人がいない。
- ・神社総代とこれからなる地区区長の意識レベル低下
- ・伝統芸能に対する住民の理解が少ない。子ども達の認識がない。
- ・価値観の多様化、行動様式の変容で郷土芸能への関心が相対的低下
- ・以前に獅子舞保存の協力を町内の住民にお願いしたが、協力を得られずそのままになっている。

■神楽

○順調

- ・現在約 20 名の会員がいる。
- ・若干の参入が見られた。
- ・若い後継者が順調に育っています。
- ・新会員 4 名入会。毎月 2 日 2 時間の練習を行っている。

○後継者不足（今後への不安）

- ・会員の減少
- ・会員の高齢化（ほか 4 団体）
- ・現在すでに高齢者が多く先行きの見通しは立っていない。
- ・後継者がいない。
- ・入会者がいない。（ほか 2 団体）
- ・後継者が入ってきません。
- ・年代の高齢化。若年層の入会はゼロである。
- ・7 年間入会者がいない。高齢化が進むばかり。
- ・高齢の方がやめている。新しい若い人が入ってくれない。
- ・会員（神楽師）の高齢化や死亡で神楽師激減
- ・公開練習で行っています。会費も無料でやさしく、あたたかくも。効果もありません。
- ・現在の会員は 8 名、40～50 歳代 2 名、60～80 歳代 6 名である。
- ・コロナ禍時期に高齢化による引退（5 人/15 人中）があったが、後継者確保への危機感を真剣に訴えて理解を得た（日曜への大祭期日変更も後押ししたと分析）。
- ・個を優先する感じでやりづらい。若い時に団体活動を体験した人を口コミで入れるというか誘う。
- ・平成 28 年以降新規加入者なし。
- ・小学生がいない。
- ・小中学生も学年が進むにつれて塾・部活等で多忙で自然発生的に退会となっている。
- ・舞を担当している中核の 3 名が 50 歳位の年齢である事、またその子どもの高校生や中学生が小さい時から入会しているため。
- ・少子化が起因している。
- ・後継者の加入については常に声をかけているが、子どもが小さい、仕事があるなどで良い返事もらえない。

○地域の協力・伝統芸能に対する関心の薄れ

- ・関心が無い。
- ・興味を示す若者がいない。（ほか 1 団体）
- ・町内において「後継者不足」の認識が低く、また、継承する機運が低い。
- ・神楽はほかの伝統芸能（獅子舞・囃子）と比較して身近に感じられない。
- ・町発行のたよりに募集の記事を掲載するも何の反応もない状態なり。
- ・周囲全体が神楽に対して興味を示さなくなり、後継者がいない。
- ・昔と違って今の若者は伝統芸能には関心がなく、入会は絶望的である。
- ・地元の（氏子）の神社である事。理解が足りないと思う。

■祭り囃子

○順調

- ・今年は何育成会の応援があった。
- ・退会者を出さずに再開後も活動を続けている。
- ・夏祭りや文化祭に育成会が参加した。
- ・当地区は世帯数が増えて、若人が多い。
- ・参加者は減少したが、昨年・本年と練習ができている。
- ・お祭運営には10・20代の若者が積極的に参加している。
- ・若者の数が少ないが、祭りの伝承はできていると思う。
- ・低学年の練習者が増えた（小学3年以下）。
- ・以前は3年生以上で行っていたが、今年は1年生以上も参加しました。
- ・昨年より活動開始（約60人の子ども達）今年度子ども達約100人参加した。
- ・保存会員の子ども達が継承してくれている。育成会の中から興味のある方を誘っている。
- ・育成会と保存会が長年連携して祭り練習している。成人や高校生等、自主的に入会してくれる。

○後継者不足（今後への不安）

- ・人手が足りない。
- ・後継者が地区にいない。
- ・少子化による人口減少
- ・まとめ役（責任者）の不在
- ・指導者不足（ほか3団体）
- ・指導者が不足している。各パートリーダーはいるが、他に増えていない。
- ・少子高齢化等、また社会状況等の問題でむずかしい時代です。
- ・世代間に人材のいない世代があり、運営が困難になる可能性が高いです。
- ・人探しに困難していて、関係者にも話をしているのですが他人事です。
- ・参加者意識から主体者への意識への転換が必要と考えている。
- ・危機感が今いる人間にない。自分さえよければいい（年齢が65歳以上）。
- ・会員は地区内約40戸で構成しているが、高齢化と後継者不足により、存続は難しくなっている。存続もあと10年が限度ではないかと思われる。
- ・高齢化社会のため、地域の人達には活動する時のお手伝いは一切望まれないのが現状で、登録されている人達だけで全ての活動を行っている状態です。
- ・祭などでアピールできず、団員を増やすことができなかった。
- ・大人や子どもが出て来ないと、現メンバーでは衰えや意欲低下が心配される。
- ・補助事業を契機に関心が高まっているが、持続可能な体制にまで成長していない。
- ・もともと後継者不足のところで、コロナで2年間活動ができなかったため、世代間の育成ができなかった。
- ・勤め人は出勤停止（感染）を心配して参加しない。30、40代がいない。教える人が少なくなった。
- ・役員若返り。高齢指導者を相談役とし会運営や伝統技能の継承指導を受ける。定期的な練習
- ・子ども育成会を中心に活動しているため、少子化の影響が出て来ている。
- ・小学生はお囃子を覚える時期を逃した。
- ・子ども達の絶対数が少ないことと、親たちの理解不足である。
- ・今のところは、何とか世代交代ができていますが、今後の後継者問題は深刻な状況にあります。当地区は相当な速度で少子高齢化が進んでいる。

- ・屋台囃子稽古会に参加するのは子どもたちだけで大人は参加してくれません。故に大人が覚えて指導者になるという環境ができていません。従って現指導者が元気なうちに後継指導者を育成するシステムを考えなくてはならない現状かと思っています。
- ・小学生が令和4年度の14人から、本年度は7人となっている。かつ、3年間お祭りがなかったため、保護者のお囃子への関心が薄くなってきている。
- ・子どもの減少により参加者が少ない。感染症を意識して練習時間を長く取る事ができず、簡単な演目に指導がしぼられる。
- ・高校生や大学生などがお囃子に参加してくれているが、小中学生の指導を行えるかとなると心配要素もある。
- ・育成会と一緒に祭りで囃子を演奏できるのですが、小学校を卒業すると囃子も卒業してしまう。中学、高校へ行っても戻ってこられる場になっていない。
- ・祭りの担い手(太鼓、手古舞など)である小中学生が少ない。現在、小学生・子ども会は8名のみ。5年後は更に減少する。

5年後の活動見通しについて（できる限り原文のまま記載する）

■人形芝居

○順調ではない

- ・幅広い年齢層の座員を確保したい。
- ・メンバーの高齢・後継者不足、義太夫・三味線奏者不足
- ・現状と変化なければ大丈夫だが、そろそろメンバーの高齢化が目立っている。

■歌舞伎

○順調

- ・子ども歌舞伎としては活動に問題ないと思う。

■獅子舞

○順調

- ・会員全員が獅子舞継続で意見が一致している。
- ・今現在12名が活動していますが、10月より3、4名加入が決定しているため。
- ・5年後の事は予見が難しいが、希望的観測を言えば、順調に活動ができているように思われる。その理由は現在40歳の舞い方（2名）が熱心に取り組んでいるので、彼らに期待したい。
- ・中学生から高校生が続けてくれると思っています。20、30代の青年が3、4人協力してくれる。
- ・保存会の活動も毎年順調であり、資金面でも各種団体からの補助もあり、問題はない。
- ・5、6年は保存会の継続、活動はできると思う。
- ・獅子舞をした子ども達（今は大人）が市外、県外に行っても3月のお祭りには参加してくれる。
- ・現状より困難ではあると思うが、活動ができないという状況にはならないと思われる。
- ・当団体については現状程度の活動はできると思っている。他の団体が同じようにできるか不安もあり、連携した発表会が継続できるか不安である。
- ・活動は中断しないよう保存会一同続けていくことで、10年後は500年目となり、それに向けてもがんばって活動していると思う。

○順調ではない

- ・人手不足
- ・後継者がいない。
- ・高齢化及び後継者不足
- ・舞子予定者が地域に不足する。
- ・今継承している人は高齢者が多い。
- ・高齢者のために継続は困難
- ・10～15年位は活動可能であるが、その後は後継者の問題がある。
- ・指導者の高齢化。若い世代や子ども達を獅子舞に呼び込めない。
- ・以前に役者をしていた50歳～65歳の人が参加していない。
- ・舞い方の高齢化がさらに進み新規加入者の見込みが少ない。
- ・大人の踊り手、笛吹き、高齢化が進み大変だと思う。
- ・舞子がない。獅子舞の振りの動作が激しく、若手でなければ体力的に持たない。
- ・後継者が5年後に育っているか不明。舞、笛の師匠が高齢化している。子ども達も中学、高校に行くのと部活、受験に時間を取られて来なくなるパターンが続いている。
- ・仕事と練習・発表日が重なり、参加できる人が集まらない。人口減少である。

- ・今後5年程度は活動を継続していけるとは思うが、その先はかなり危機的で中断の可能性があると思っております。
- ・簡単にはゆかないですが、若い人材の発掘に努めてまいります。
- ・現在70歳の人が多く80歳に近い人もいます。獅子舞は動きが激しいので今後踊れるかどうか。
- ・現在中心的に活動している人たちが50代後半であり、5年後は大丈夫だと思うが、10年後以降は危機的と思っている。
- ・八幡宮の祭礼の際の神輿の先導役であるが、八幡宮の祭礼で神輿が出ない。獅子の最終出演は昭和35年、笛・太鼓の練習は平成22年までで、後継者が途絶えたままである。
- ・舞いは男子などで将来も比較的地元に残るが、笛については女子が中心となっているので指導者が減少してしまう。
- ・子どもの数が少なくなり後継者育成に今後不安がある。
- ・子どもの参加が足りず、子どもの代わりに大人が獅子舞をしなければならない状況である。
- ・子ども4人による獅子舞であるが、男女合わせても5年後には4人確保できない。
- ・保護者が子どもを獅子舞に参加させてみようという気持ちにさせられない。
- ・今年の獅子舞をどうするかを決める会議を予定。地域内の祭り等の行事も子どもが減っており、中断や地区外からの応援で成り立っており、今後は町としてどう対処していくか決定して子どもや後継者育成を支援してほしい。支援がなければ獅子舞を中断することになる。

■神楽

○順調

- ・高齢者引退により、諸活動にメンバー意見が反映されやすくなった。
- ・新規会員のこれまでにない熱心な取り組みが見られ、頼もしい。
- ・30～60歳までが熱心に練習しています。
- ・氏子組織との連携が良好である。会員数、年齢層、活動内容が良好である。
- ・現在21名の保存会員が継続していれば活動ができると思う。
- ・若干の成長が見られるので。
- ・婦女子、子ども(幼稚園生含む)にアプローチしてきたが、この5年間で2名の会員が誕生した。

○順調ではない

- ・高齢化。入会がない。(ほか6団体)
- ・伝統芸能維持者の高齢化(死亡)と後継者がいないこと。
- ・現状20、30代の会員がゼロで先細り感が否めない。
- ・現在では順調というか、何とかやっていますが、高齢化しているため、会員の補充ができないと5年後の活動は厳しいかと思っております。
- ・すぐに活動の中断はないと思うが、現状のまま5年経過した場合、現在18名の会員のうち13名が65歳以上になってしまう。
- ・神楽師の高齢化と人材は有志のため、強制できない。
- ・高齢化による区の縮小化
- ・現在の最高齢者3名が71歳であり、まだ実演ができる。しかし、5年後は難しくなると思う。
- ・神楽会員(神楽師)の高齢化と退会。後継者がいない(知人に当たるが断られる。あんたがたが頑張ればいいと言われる)。

■祭り囃子

○順調

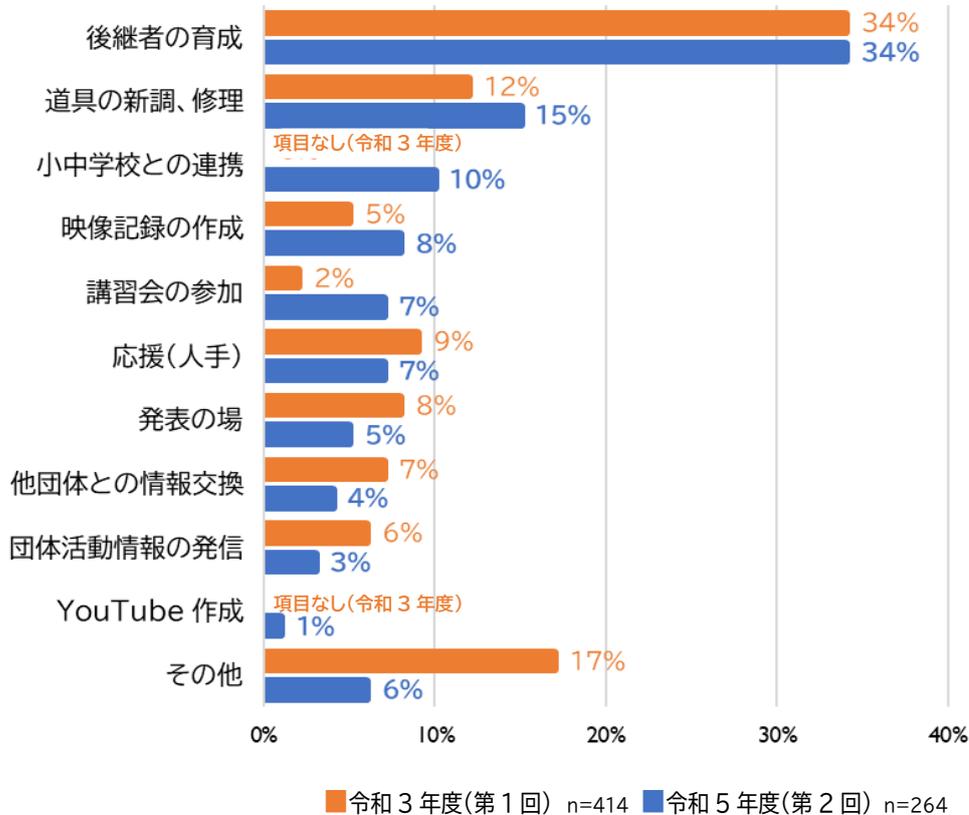
- ・メンバーの7名が子どもを指導している。
- ・2年間の活動でおよそコロナ前の状況に戻りつつあるため（子ども達の参加）。
- ・会員が維持できている。
- ・小学生から大学生まで、今の調子で続けていけば順調に活動ができると思う。
- ・現在の低学年者が継続的に練習していれば（期待）、中学生くらいは順調だと思う（部活あるが）。
- ・5年後はまでは何とかなりそうですが、10年と言われると大いに心配です。

○順調ではない

- ・後継者不足（ほか3団体）
- ・指導者不足による継続の困難性
- ・まとめ役（責任者）の不在
- ・継承者は大学生までいるが、地元就職できない。出てくれるか心配です。
- ・現在は大変順調に活動しているが、子どもの数が減少しており、活動がどのようになるか心配される。祭りでの屋台けん引を保護者に依頼しているが、現在でも人手不足です。
- ・教える方が高齢化しており、今後の指導者不足になる状況が心配である。
- ・子どもの減少。子どもも大人も次世代のリーダーが育たない。
- ・育成会保護者が毎年変わるため、保護者の継続的な参加と協力、理解を得ることが難しい。若い世代の転入があるうちはいいが、将来これが途絶えてきた場合は活動が難しい。
- ・新規の団員が増えない。団員も高齢化になりつつある。
- ・他の地区でも育成会や子ども会に入会する人達が少なくなってきているとともに、休会するところもでてきています。
- ・活動は困難であるが、低学年や一般の方々も参加しやすくなる空気を作り出したい。
- ・祭りごとの参加者が不安定（自己都合）。全会員が全祭りにフル参加は期待できない。
- ・少子化の影響があり、従来の子どもの育成会と指導者では活動が困難になる。今後は対象を小学生に限定しないで拡大していくことが必要と思う。
- ・お囃子の継承は大学生までにはいるが、地元就職ができない。今後も出てくれるか心配である。

7. 今、必要とする支援について 【調査項目 Q6 / 複数回答 n=264 団体】

活動を行うにあたり、今、必要とする支援を教えてください。



伝統芸能団体が活動を行うにあたり、必要とする支援について複数回答にて尋ねた。最も多い回答が「後継者の育成」34%で、次いで「道具の新調、修理」15%、「小中学校との連携」10%、「映像記録の作成」8%、「講習会の参加」「応援(人手)」7%、「発表の場」5%、「他団体との情報交換」4%などである。令和5年度は、伝統芸能を継承する上で欠かせない「人」と「道具」に加え、次世代に継承するための方策として「学校との連携」、「映像作成」等の支援を必要としている。

第1回アンケート(令和3年度実施)にて「必要とする支援」について尋ねたところ、第2回と同様に「後継者の育成」が最も高く、「道具の新調、修理」、「応援(人手)」、コロナ禍で休止・中止となった「発表の場」、「他団体の情報交換」などであった。

	計					計	
	人形芝居	歌舞伎	獅子舞	神楽	祭り囃子		
後継者の育成	8団体	2団体	29団体	27団体	23団体	89団体	34%
道具の新調、修理	4団体	0団体	12団体	8団体	16団体	40団体	15%
小中学校との連携	2団体	0団体	8団体	7団体	9団体	26団体	10%
映像記録の作成	2団体	0団体	9団体	6団体	3団体	20団体	8%
講習会の参加	1団体	0団体	2団体	4団体	11団体	18団体	7%
応援(人手)	0団体	0団体	6団体	3団体	9団体	18団体	7%
発表の場	2団体	0団体	4団体	4団体	3団体	13団体	5%
他団体との情報交換	1団体	0団体	6団体	2団体	1団体	10団体	4%
団体活動情報の発信	1団体	0団体	3団体	4団体	0団体	8団体	3%
YouTube 作成	0団体	0団体	3団体	1団体	0団体	4団体	1%
その他	0団体	1団体	8団体	5団体	4団体	18団体	6%
計	21団体	3団体	90団体	71団体	79団体	264団体	100%

	活動が順調な団体		活動が順調ではない団体		回答なし	計	
	団体数	割合	団体数	割合			
後継者の育成	64 団体	34%	24 団体	33%	1 団体	89 団体	34%
道具の新調、修理	33 団体	17%	7 団体	10%	0 団体	40 団体	15%
小中学校との連携	17 団体	106%	9 団体	13%	0 団体	26 団体	10%
映像記録の作成	17 団体	9%	3 団体	4%	0 団体	20 団体	8%
講習会の参加	16 団体	9%	2 団体	3%	0 団体	18 団体	7%
応援(人手)	7 団体	88%	10 団体	14%	1 団体	18 団体	7%
発表の場	12 団体	100%	1 団体	1%	0 団体	13 団体	5%
他団体との情報交換	8 団体	62%	1 団体	1%	1 団体	10 団体	4%
団体活動情報の発信	6 団体	86%	2 団体	3%	0 団体	8 団体	3%
YouTube 作成	1 団体	14%	3 団体	4%	0 団体	4 団体	1%
その他	8 団体	67%	10 団体	14%	0 団体	18 団体	6%
計	189 団体	100%	72 団体	100%	3 団体	264 団体	100%

必要とする具体的な支援内容（できる限り原文のまま記載する）

■人形芝居

○道具の新調・修理

- ・人形や衣装の修繕を頼める人形師が近くにいない。

○後継者の育成

- ・活動可能な座員は減少する一方なので、新規の座員の加入が望まれるが難しい状況

■歌舞伎

○後継者の育成

- ・大人の歌舞伎の方にもっと後継者を育てる意識を持ってほしい。自分達の事しか考えていない様に感じる。

○その他

- ・以前は小学校で公演し子役に出演してもらい交流したが、団体の力では資金に限界もあり、現在は中止となっている。

■獅子舞

○後継者の育成

- ・地域内外の青年を募集したい。
- ・後継者の育成が急務だと考えています。
- ・地域を広げて入会者を募集してはいますが、現状応募者はありません。
- ・後継者育成方法。会員を増やす方法を教えてください。
- ・小中学生の後継者はもとより、中年（30、40、50歳代）の人たちにも新規に加わってもらい、年齢構成上厚みのある後継者を育てたい。
- ・今の小中学生は勉強、クラブ活動、学習塾等があり、なかなか興味を示してくれない。
- ・獅子舞を保存活動している他地区からできれば子ども達の参加が欲しい（声をかけているが、なかなか参加につながっていない）。
- ・踊り手はもちろんですが、現在の師匠、笛吹きなどの後継者もいない状況です。なり手不足ですね。これから獅子舞は難しいと思います。
- ・後継者の確保は常に課題だと考えている。地域の中で協力者をいかに確保するかを検討中です。
- ・子どもの数が少なく中高生の卒業後が心配です。獅子舞は独自性が強く外部よりの支援は困難と思っています。そのため村で生まれ育って村外で生活している人も参加できるよう規定を変えています。なかなかうまくいきません。
- ・踊り手大人3人、笛の吹き手がいなくなる。
- ・4年のお祭り中止と少子化による子どもたちの参加が少ない。他地区の子どもたちに呼びかけを行いたい。

○小中学校との連携

- ・小中学校と連携していきたい。
- ・小学校（2校）のふる里学習で獅子舞を行い、後継者を集めているがうまくいかない。
- ・通知表に伝統芸能に参加している児童・生徒を学校が認定・評価してくれたらと思います。特に中学生は部活動の一種として学校が認めてくれれば地域の芸能に打ち込んでくれるお子さんも出るのではないかと淡い期待を持ちます（保存会が部活動の外部委託先になり得ます）。

○道具の新調、修理

- ・獅子頭の修理、お面の新調
- ・小太鼓の修理、バチで打ち鳴らすため紐が切れ易い。
- ・使用している大太鼓が古くなり太鼓にヒビが入りはじめた。
- ・150年前くらいの道具を使用しているため、獅子頭のひび割れ、衣装の破れ等。できれば獅子頭3体と狐の面の塗り替え、獅子の羽の修理をしたい。
- ・練習を行う上で必須なのが腰太鼓であるが、現在33個ある内1/3が傷んできているので張り替えたい。また、和紙の購入に際し小さい単位での購入が難しく、1ロール単位約2万枚で60万円位であり、悩んでいる。

○発表の場

- ・先日行われた群馬の獅子舞公演等に参加したい。
- ・地元の小中学校の子どもたちに観てもらおう機会があると、やがて若手人材の発掘につながるのではないかと期待しています。

○他団体との情報交換

- ・同じ状況の方との交流会
- ・後継者を増やすためのアイディア、取組みなどのデータベースなどがあるとよい。

○その他

- ・来年度実施予定の「生誕250年祭」に係る金銭補助
- ・日頃の練習にも費用が生じます。活動運営補助のようなものがあれば助かります。
- ・伝統芸能に無関心の時代ですかね。

■神楽

○後継者の育成

- ・会員を増員したい。
- ・後継者がいないため大変です。
- ・会員による知人などへの声かけの実施
- ・できるだけ知名度を上げ、多くの方に関心を持って貰えるような活動を行い、後継者を募りたい。
- ・昔の会としては地元の人を対象に会員を募集していましたが、現在の会員は他県の人を含め、遠くの人もいるので。これからも地元という事にとらわれず、広い範囲の人を対象に募集したい。
- ・後継者の育成及び加入は地域の問題ですので地域で考えます。
- ・後継者を探したいが関心の有る人が居ない。観るのは良いがやるのは嫌と言う人ばかりが現実。愛好者による維持（運営）はもう限界に来ている。現状行政支援策は人（後継者）が居て成り立つのであって後継者がいない今、どういう支援を求めたらよいのかわからない。例えば費用支援がいくら有っても人が居ない限り何もできない。人を集める支援が欲しい。
- ・幼稚園児の参加も視野に入れたいと考えている。獅子頭の軽いものを考えてみたい。

○道具の新調、修理

- ・太鼓、鈴、衣裳の劣化が進んでいる。
- ・感染症対策として神楽の舞で一座一座での面を新調したい。

○他団体との情報交換

- ・他の団体はどのようにして会員確保に努めているのか知りたい。
- ・他団体との交流や会議、研修会等、組織維持のための計画も企画してもらいたい。

○小中学校との連携

- ・小中学生に教えたいと思うが、近くの小学校は統合され廃校となってしまった。学校と話をしたが、非協力的であった。学校は排他的である。
- ・子ども中心のため、小学生教育で地域の催し物を取り入れて欲しい。子どもには小さい頃の心のふる里が少なくなっている。神楽、祭り、どんどん焼き等を大切にすべきと思います。子ども達は、今はやりのダンスには興味を示すが神楽等の伝統文化がおざなりにされている。

○発表の場

- ・地域での発表の場がない。

○その他

- ・神社の必要性を地域にアピールする必要があると思う。
- ・どのような活動をすれば興味を持って会員として参加してくれるのか。
- ・伝統芸能に携わる者への既存の支援継続も必須でしょうが、一般県民への伝統芸能保全への理解をより深める施策や啓蒙を望む。

■祭り囃子

○後継者の育成

- ・人手不足が心配
- ・指導者等の担い手の不足（高齢化）
- ・後継者、特に後継指導者の育成
- ・若い指導者の育成を考えたい。
- ・20、30代の後継者を育成したい（現在お囃子に参加している父兄達？）。
- ・当会は子ども囃子が中心の会であるため、子ども囃子を指導できる高校生や大学生を育成したい。
- ・若衆の人員不足が今後、祇園祭をするにあたり問題となる課題です。
- ・色々な手段を講じて対策を考えていますが、人口減のなか少子化（現在、小学校の生徒数全校で62人）が恐ろしい速度で進んでおり、相当心配です。まずは人手が欲しい。
- ・山車祭り保存会の課題について。山車の出場に際しては、金銭的な課題よりも人的な問題が多い。子ども達だけでは山車の巡行が困難。当日、山車を曳く大人が少ない。山車が出せない町内においては、担ぎ手不足が特に深刻で、お囃子を教えられる人材が年々減少している。

○道具の新調、修理

- ・祭り道具、衣裳の新調。山車の修理
- ・太鼓等の修理に支援をいただきたいです。
- ・太鼓修理、ハッピー等の購入（古くなってきた）
- ・山車が老朽化しており、修理・改修を考えたい。
- ・屋台の修繕(高額な費用が必要)。太鼓類の皮の張替えが不可欠(当地区の太鼓も2度破けている)。提灯の取り替え。消耗品は全て高額であります。
- ・祭りの道具、衣裳の新調、山車の修理
- ・古いしめ太鼓の修理。古くなっている衣裳（半纏）を新調したい。
- ・山車については車輪の摩耗による擦れがあり、数年後には交換修理が必要

○映像記録の作成

- ・令和4、5年にかけて館林ケーブルテレビの協力で準備から発表までの記録が収録された。これをドキュメントとして「記録保存」を図りたく補助事業への申請を考えている。記録することで参加・活動の意欲が高まる。

○小中学校との連携

- ・市の重要無形民俗文化財である屋台囃子を授業に取り入れて欲しい。
- ・中学生になると部活優先となり参加が難しくなったりするので調整が大変
- ・子どものスケジュールにお祭りが入る余地なし。学校の部活等を重ならないようにならないか。
- ・子ども達の習い事が多様で参加者の減少傾向があり。学校から町内行事に参加しましょうと呼び掛けてほしい。
- ・教育（小中高）で伝統芸能について、しっかり学ぶ機会をもうけること（現在どれくらい取り組んでいるのかわかりません）。ダンス教育は活発になっているようですが、伝統芸能も同様にカリキュラムに取り入れても良いと思います（現状は良く知りませんが）。

○他団体の情報交換

- ・他団体の情報が欲しい。

○講習会の参加

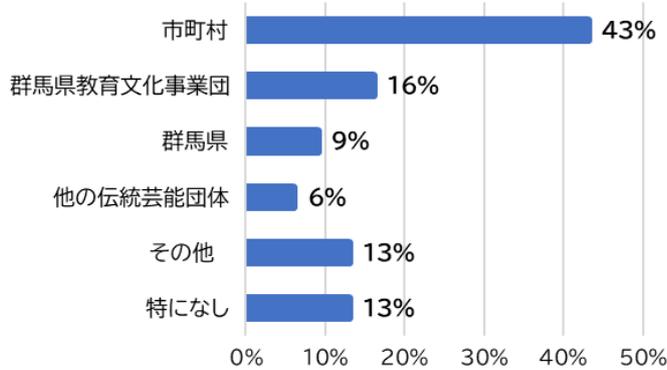
- ・以前、笛の講習会に参加したが、コロナの関係で3回中2回の講習で終了だったが、大変すばらしい講習であったので、他のメンバーとともに参加したい。

○その他

- ・資金不足（ほか2団体）
- ・この先若い人が何人くるかで決まる。活動費用が欲しい。
- ・区、祭典、育成会とで理解と運営
- ・自治会等の祭り行事、育成会の協力参加支援、伝統芸能発表会。
- ・少ない指導者たちも生活が困難なため、活動のために時間を作ることが以前より難しくなり、活動拠点を使用しやすい仕組みにしてもらえたら嬉しい。例：集合するだけで直ぐに練習ができる。
- ・現状は太鼓を階段上から2階分下ろしてでしか練習ができないため体力の限界。コロナ感染、熱中症対策として山車の風通しを良くしたい。勤務先に「コロナ感染で迷惑をかけてしまうのでは」と思わずに済む環境を希望。

8. 活動の相談について 【調査項目 Q7 / 複数回答 n=124 団体】

団体が活動する上で、相談したいところはありますか？相談したい内容等があれば、具体的に教えてください。



団体が活動する上で、相談したいところはあるか複数回答で尋ねたところ、「市町村」が43%と最も多く、次いで「群馬県教育文化事業団」16%、「群馬県」9%、「他の伝統芸能団体」6%であった。「特になし」「その他」の主なご意見は、地域に人がない、子どもがいない、相談しても解決できない等である。

また、他の団体はどのようにして会員確保に努めているのか知りたい、部活動の地域移行の一環として地元の伝統芸能に参加するというのも良いことではないか等の意見もあった。

地域の伝統芸能の継続的な支援や後継者育成問題には、市町村との関わりが欠かせない。各地の伝統芸能が存続するためには、団体と市町村が密接な関係を築くことが必要である。伝統芸能の一番の理解者は地域住民と市町村であるため、事業団では市町村との連携を意識して取り組みたい。

具体的に相談したい内容（できる限り原文のまま記載する）

■人形芝居

○道具の新調、修理

- ・人形作製・修理等の業者紹介

○発表の場

- ・公演機会の拡充（例：各コミュニティーセンターの体験講座など）

○後継者の育成

- ・一番のネックは座員不足。そのためには現座員が座員確保に動かなければと考えますが、なかなか難しい状況である。

○補助金

- ・人形製作のための補助金
- ・300年祭の終了後、地元の人形舞台での公演を地域鑑賞会として定例化した場合、種々課題が出てくると思われるので、相談に乗っていただければ幸いです。地域公演は、1座だけの公演ではマンネリ化する恐れがある。他の人形座の公演を依頼するには、資金難あり。

■歌舞伎

○後継者の育成

- ・各団体とも後継者不足で困っている。

	計					計	
	人形芝居	歌舞伎	獅子舞	神楽	祭り囃子		
市町村	4団体	0団体	18団体	14団体	18団体	54団体	43%
群馬県	2団体	0団体	1団体	2団体	6団体	11団体	9%
群馬県教育文化事業団	4団体	1団体	5団体	2団体	8団体	20団体	16%
他の伝統芸能団体	0団体	0団体	6団体	0団体	1団体	7団体	6%
その他	1団体	0団体	4団体	7団体	4団体	16団体	13%
特になし	0団体	1団体	8団体	4団体	3団体	16団体	13%
計	11団体	2団体	42団体	29団体	40団体	124団体	100%

	活動が順調な団体	活動が順調ではない団体	回答なし	計	
	市町村	42 団体 49%	12 団体 34%	0 団体	54 団体
群馬県	7 団体 8%	4 団体 11%	0 団体	11 団体	9%
群馬県教育文化事業団	13 団体 15%	6 団体 17%	1 団体	20 団体	16%
他の伝統芸能団体	4 団体 5%	2 団体 6%	1 団体	7 団体	6%
その他	12 団体 14%	3 団体 9%	1 団体	16 団体	13%
特になし	8 団体 9%	8 団体 23%	0 団体	16 団体	13%
計	86 団体 100%	35 団体 100%	3 団体	124 団体	100%

■獅子舞

○後継者の育成

- ・後継者の育成方法
- ・後継者育成、募集の取り組み方法
- ・後継者を紹介してもらいたい。
- ・大学生など興味がある若い人を紹介していただきたい。
- ・他団体のうまく保存会活動ができている団体は参考にしたい。
- ・後継者を増やすためのアイデア、取組みなどのデータベースがあるとよい。

○道具の新調、修理

- ・太鼓の買い替えについて助成を受けたい。
- ・獅子舞の頭、面等の修復、および舞い方の衣裳の新調、新しい笛の購入に伴う資金援助、関連業者の紹介を依頼、相談した。市役所（文化課）では適切な対応をしてくれた。
- ・獅子頭の保管。現状は図書館にて保管して頂いておりますが、来年度より新複合施設になるため、保管できなくなるとの連絡を受けている。火災・盗難防止のため、何か良い方法があったら教えて頂ければ幸いです。

○発表の場

- ・町は伝統文化に対して関心がないのか？他の団体との発表会の企画がない。

○小中学校との連携

- ・部活動の地域移行の一環として、地元の伝統芸能に参加するというのも良いことではないでしょうか。「優劣」を競う場ではありませんが、長い歴史を持つ伝統芸能に魅せられる若者も現れるかもしれません。教育委員会の指針により、古典的な文化が守られる可能性があるのでは？

○その他

- ・生誕 250 年祭に係る金銭補助について相談したい。

■神楽

○後継者の育成

- ・他団体がどのようにして会員確保に努めているのか知りたい。
- ・新規会員がほしい。
- ・後継者がいないことが最大の課題であるが解決の具体策はない。

○道具の新調、修理

- ・道具を修理したい。

○発表の場

- ・発表の機会がほしい。

○その他

- ・活動助成金を増やしてほしい。(ほか 2 団体)
- ・市町村に文化財指定を希望する。(ほか 1 団体)
- ・町も高齢化の各団体となっているので相談するところがない。(ほか 2 団体)
- ・神楽保存会は、自治会から託されて愛好者により維持活動しているため、相談相手は自治会長、副会長になる。

■祭り囃子

○後継者の育成

- ・後継指導者を育成するにはどうすれば良いのか。

○道具の新調、修理

- ・祭りの道具、衣裳の新調、山車の修理

○他団体との情報交換

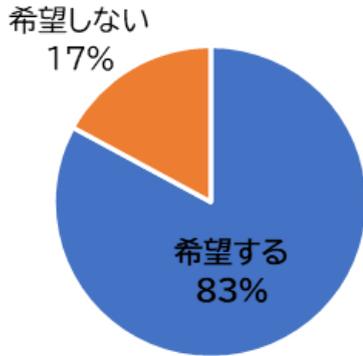
- ・県がどんな意見があるのか話してみたい。
- ・快適な活動拠点づくりのために動いて頂けるとありがたく継続への道が見えるかもしれません。
- ・相談しても解決できる方法が見えてこないのが実情です。今後は団体同士の統合・合併も視野に入れてお互いの伝統を守る活動も有りなのではないでしょうか。

○その他

- ・補助金等を助成していただきたい。
- ・市から助成があれば教えていただきたい。
- ・定期的な資料があればいただきたい(全国的な悩み事、成功事例など含む)。

9. 活動の相談希望について【調査項目 Q7-②/1つ選択回答 n=82 団体】

必要に応じて、相談希望先にアンケート情報の提供を希望しますか？



前質問（活動の相談について）で「相談したいところがある」と回答した団体(124 団体)に、必要に応じて相談希望先にアンケート情報を提供して良いか尋ねたところ、「希望する」は83%で、「希望しない」の17%を大きく上回った。

	計					計	
	人形芝居	歌舞伎	獅子舞	神楽	祭り囃子		
希望する	6団体	2団体	24団体	21団体	15団体	68団体	83%
希望しない	0団体	0団体	2団体	3団体	9団体	14団体	17%
計	6団体	2団体	26団体	24団体	24団体	82団体	100%

	活動が順調な団体		活動が順調ではない団体		回答なし	計	
	団体数	割合	団体数	割合		団体数	割合
希望する	50 団体	82%	15 団体	83%	3 団体	68 団体	83%
希望しない	11 団体	18%	3 団体	17%	0 団体	14 団体	17%
計	61 団体	100%	18 団体	100%	3 団体	82 団体	100%

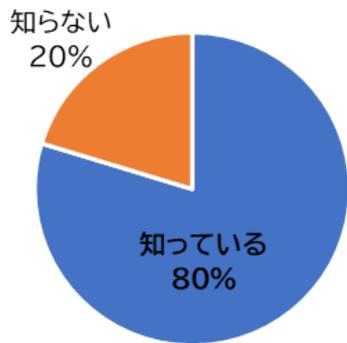


県内外の文化・芸術に関する各種助成金等の関連するサイトをまとめ、群馬県教育文化事業団 WEB サイト内『ぐんま文化芸術活動バックアップセンター』にて紹介しています。



ぐんま文化芸術活動
バックアップセンター

10. 「群馬のふるさと伝統文化」支援事業補助金について【調査項目 Q8 / 1つ選択回答 n=138 団体】
 県内の伝統芸能団体を対象とする「群馬のふるさと伝統文化」支援事業補助金をご存じですか？



県内の伝統芸能団体を対象とする「群馬のふるさと伝統文化」支援事業補助金を知っているか尋ねたところ、「知っている」は80%で、「知らない」の20%を大きく上回った。
 第1回アンケート（令和3年度実施）にて「支援事業補助金」について尋ねたところ、「知らない」が令和5年度と同じ20%であり、変化がみられなかった。

	計					計	
	人形芝居	歌舞伎	獅子舞	神楽	祭り囃子		
知っている	8団体	2団体	40団体	30団体	30団体	110団体	80%
知らない	0団体	0団体	10団体	10団体	8団体	28団体	20%
計	8団体	2団体	50団体	40団体	38団体	138団体	100%

	活動が順調な団体		活動が順調ではない団体		回答なし	計	
	団体数	割合	団体数	割合		団体数	割合
知っている	80	84%	29	71%	1	110	80%
知らない	15	16%	12	29%	1	28	20%
計	95	100%	41	100%	2	138	100%



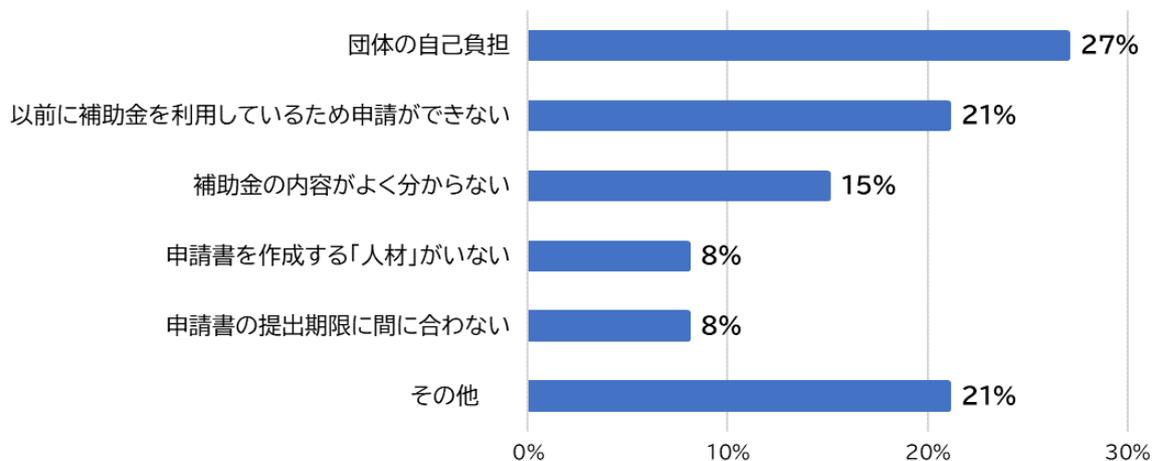
本補助金は、県内各地で継承されている伝統文化を守るため、道具の新調・修理、後継者養成講習、映像記録の作成などにかかる経費の3分の2を補助するものです（上限20万円）。当事業団が事務を行っているため、関心のある方はお問合せください。

令和5年度より、団体が補助金を利用しやすいように募集内容を一部修正しております。例えば、10年間隔が空いていれば同じメニューで補助を受けることができます。また、同年度内（4月～翌年2月まで）にかかった経費が補助の対象になるなど工夫しております。

（問合せ：事業支援課 ☎027-243-7200）

11. 補助金利用の課題について 【調査項目 Q8-②/複数回答 n=131 団体】

「群馬のふるさと伝統文化」支援事業補助金の利用にあたり、課題などがあれば教えてください。



「群馬のふるさと伝統文化」支援事業補助金の利用にあたっての課題を複数回答にて尋ねたところ、最も多いのが「団体の自己負担」27%で、次いで「以前に補助金を利用しているため、申請ができない」21%、「補助金の内容がよく分からない」15%であった。

第1回アンケート(令和3年度実施)にて「支援事業補助金」について尋ねたところ、「(補助金を)活用したことがあるので申請ができない」38%、「(補助金を)聞いたことはあるが、活用したことはない」36%であった。

補助金についてのご意見 (できる限り原文のまま記載する)

■人形芝居

○申請書の提出期限に間に合わない

- ・まだ計画が具体的でないので申請ができない。また、計画が具体的になった時点で、申請書の提出期限に間に合わないことが懸念される。

■獅子舞

○申請書の提出期限に間に合わない

- ・補助事業の通知から締め切りまでの日数が少ない。
- ・見積依頼、金額を含めて申請に時間がかかる。
- ・締め切り期限を設けずに年間を通していつでも申請できるような形が良い。

○団体の自己負担

- ・区域の支援金が少なすぎて手持ちの金が潤沢ではない。
- ・道具が特注なので、単価が高く新調が困難である。
- ・太鼓修繕にかかる費用が高いため、2/3の補助はありがたいが自己負担額が多くなるため大変。

	計					計	
	人形芝居	歌舞伎	獅子舞	神楽	祭り囃子		
団体の自己負担	2団体	0団体	14団体	10団体	10団体	36団体	27%
以前に補助金を利用しているため申請ができない	3団体	0団体	10団体	6団体	9団体	28団体	21%
助金の内容がよく分からない	0団体	0団体	5団体	4団体	10団体	19団体	15%
申請書を作成する「人材」がない	0団体	0団体	3団体	2団体	5団体	10団体	8%
申請書の提出期限に間に合わない	1団体	0団体	3団体	1団体	5団体	10団体	8%
その他	3団体	1団体	12団体	8団体	4団体	28団体	21%
計	9団体	1団体	47団体	31団体	43団体	131団体	100%

	活動が順調な団体		活動が順調ではない団体		回答なし	計	
	団体数	割合	団体数	割合			
団体の自己負担	29	30%	7	20%	0	36	27%
以前に補助金を利用しているため申請ができない	20	21%	8	24%	0	28	21%
助金の内容がよく分からない	10	10%	9	28%	0	19	15%
申請書を作成する「人材」がない	7	7%	3	9%	0	10	8%
申請書の提出期限に間に合わない	8	8%	2	6%	0	10	8%
その他	23	24%	4	12%	1	28	21%
計	97	100%	33	100%	1	131	100%

○申請書を作成する人材がない

- ・申請書作りが大変（ほか2団体）
- ・手続きを簡便にして欲しい（ほか1団体）

○以前に補助金を利用しているため申請ができない

- ・補助金の再申請
- ・4、5年に一度は利用できるようにしても良いのでは。

○申請中（以前に補助金を利用）

- ・今回利用させていただくので、申請書を出している。
- ・2年前に利用させていただき太鼓（獅子）を修理した。
- ・令和元年に利用して笛の購入に充てた。
- ・過去に他の事業で補助金をいただき修理、補充済のため当面は大丈夫です。

○その他

- ・獅子頭及び衣装等の修理・購入先を知りたい。
- ・補助の金額が少額すぎる。獅子頭の修理などには相当の経費が必要である。現状の補助額では対応ができないと思われます。根本的に考える必要を感じます。
- ・現状衣装の新調を検討している。神社側と検討中です。

- ・現状では補助をいただかなくてもよいように思われるが、今後、数年後には補助金を必要とする事態が生じると思われる。その時にはお世話になりたい。
- ・獅子舞の場合は修繕だけ？子どもの不足で成人が活動する場合は、頭の大きさを変えるのに補助金は頼りたい。
- ・補助金の対象内容や書類を送っていただくと助かります。今後も長く獅子舞を継続してゆくつもりです。
- ・物品が昭和前半の物であり、かなり傷んできている。

■神楽

○団体の自己負担

- ・自己負担額は各々の価値、内容に応じて「なし（0円）」にする。例年継続して欲しい。活気、利用率が向上します。
- ・潤沢な資金がなく申請するにあたり、業者から見積書を提出して貰い予算決定してからでないと決められない。

○以前に補助金を利用しているため申請ができない

- ・公演活動が十分できなくても備品維持には修理と補充に多額の費用が発生するため補助金を都度利用したい。

○その他

- ・活用を検討中（ほか1団体）
- ・伝統芸能にかかる道具、衣装等は高額であり補助金率を高めて欲しい。
- ・この支援制度は素晴らしいのですが、補助金額が少ない（理想は50万円以上）。
- ・研修会費も補助金利用できないか（神楽会員の活力化のため）。

■祭り囃子

○以前に補助金を利用しているため申請ができない

- ・過去に利用させて頂いた。文化庁の伝統文化親子教室事業も利用している。
- ・前回補助金受けて後10年間は受けられないという制約は原則とし、予算枠に余裕が生じた場合は追加募集で10年以内でも優先順位に応じて受給できるようにしてもらえれば有難い。特に子どもたちの活動に際しては、保護者の個別負担のお願いが難しい。

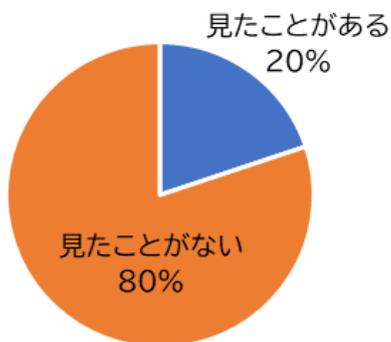
○補助金の内容が良く分からない

- ・申請していつのタイミングで支援が決定するのか等の情報が不足している（補助金交付実績など）。
- ・提出書類が細かすぎると思います。

○その他

- ・令和6年は古くなっている半纏を新調したい。
- ・祭りの道具、衣裳の新調、山車の修理費を今年度申請する予定です。
- ・概ね利用メニューはわかるが、山車の大規模修繕の利用はできないものと理解している。
- ・補助対象内容を拡大願いたい。補助上限20万円では利用が難しい。
- ・負担金（金額の限度は有りますが）のような補助金を使いやすい。

12. YouTube チャンネル「ぐんまアーツ」について 【調査項目 Q9 / 1つ選択回答 n=141 団体】
群馬県教育文化事業団の YouTube チャンネル「ぐんまアーツ」を見たことがありますか？



群馬県教育文化事業団の YouTube チャンネル「ぐんまアーツ」を見たことがあるか尋ねたところ、「見たことがない」80%、「見たことがある」20%であった。

	計					計	
	人形芝居	歌舞伎	獅子舞	神楽	祭り囃子		
見たことがある	4団体	0団体	5団体	9団体	10団体	28団体	20%
見たことがない	4団体	2団体	45団体	33団体	29団体	113団体	80%
計	8団体	2団体	50団体	42団体	39団体	141団体	100%

	活動が順調な団体	活動が順調ではない団体	回答なし	計	
見たことがある	21 団体 21%	7 団体 17%	0 団体	28 団体	20%
見たことがない	77 団体 79%	34 団体 83%	2 団体	113 団体	80%
計	98 団体 100%	41 団体 100%	2 団体	141 団体	100%

群馬県教育文化事業団
動画情報配信サイト

ぐんまアーツ

【ぐんまアーツ】
【ぐんまアーツ】
【ぐんまアーツ】
【ぐんまアーツ】

チャンネル登録をお願いします。

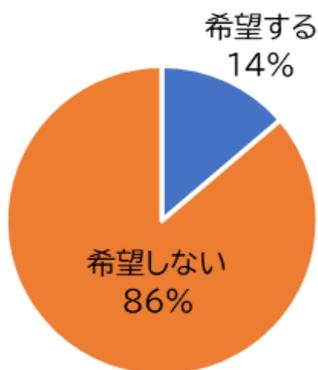
県内の伝統芸能や文化芸術に興味関心を持ってもらうため、当事業団事業や各地の祭り行事などの動画を配信しています。パソコンやスマートフォンなどから、どなたでも無料で視聴できるのでご覧ください。チャンネル登録もよろしくお願いいたします。



ぐんまアーツ

13. ぐんまアーツの動画配信について【調査項目 Q9—②/1 選択回答 n=131 団体】

各芸能団体や関係者が作成した「祭り・行事」、「出演公演」などの動画を YouTube「ぐんまアーツ」にて配信（無料）することができますが希望しますか？



当事業団では各芸能団体や関係者が作成した「祭り・行事」、「出演公演」などの動画を YouTube「ぐんまアーツ」にて配信（無料）しており、動画配信を希望するか尋ねたところ、「希望しない」86%、「希望する」14%であった。

第1回アンケート（令和3年度実施）にて「YouTube配信の希望」について尋ねたところ、「希望しない」51%、「希望する」49%であった。令和3年度はコロナ禍で多くの方が家で過ごす時間が増えたことや、YouTube動画の需要が高まったことから希望団体が多いと推測されるが、令和5年度は希望団体が大幅に減少している。

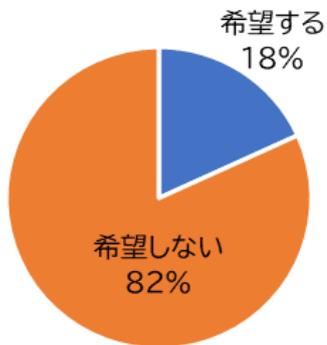
	計					計	
	人形芝居	歌舞伎	獅子舞	神楽	祭り囃子		
希望する	2団体	0団体	8団体	5団体	3団体	18団体	14%
希望しない	5団体	2団体	39団体	33団体	34団体	113団体	86%
計	7団体	2団体	47団体	38団体	37団体	131団体	100%

	活動が順調な団体	活動が順調ではない団体	回答なし	計	
	希望する	12 団体 13%	6 団体 15%	0 団体	18 団体
希望しない	78 団体 87%	33 団体 85%	2 団体	113 団体	86%
計	90 団体 100%	39 団体 100%	2 団体	131 団体	100%

「動画を公開したからといって、入会希望者が現れるとは考えられないから」との厳しい意見もあったが、YouTubeは、伝統芸能への関心や、地域や団体の魅力を知るきっかけとなるため、ぜひ活用について検討ください。

14. 動画制作講座の参加について 【調査項目 Q9—③/1つ選択回答 n=132 団体】

文化団体の活動を支援するため、「文化団体向け 動画制作講座（無料）」を開催しています。開講の折には、参加を希望しますか？



当事業団では、文化団体の活動を支援するため「文化団体向け動画制作講座（無料）」を開催しており、参加希望について尋ねたところ、「希望しない」82%、「希望する」18%であった。

希望しない理由は、人材や機材不足から取り組みが難しいという意見が多数寄せられた。一方で、新しい映像記録を作りたい、若い世代に利用してもらいたいなどの意見もあった。

	計					計	
	人形芝居	歌舞伎	獅子舞	神楽	祭り囃子		
希望する	3団体	0団体	11団体	6団体	4団体	24団体	18%
希望しない	4団体	2団体	38団体	31団体	33団体	108団体	82%
計	7団体	2団体	49団体	37団体	37団体	132団体	100%

	活動が順調な団体	活動が順調ではない団体	回答なし	計	
	希望する	16 団体 18%	8 団体 20%	0 団体	24 団体
希望しない	74 団体 82%	32 団体 80%	2 団体	108 団体	82%
計	90 団体 100%	40 団体 100%	2 団体	132 団体	100%

主なご意見（できる限り原文のまま記載する）

■人形芝居

- ・新しい映像記録を作りたい。

■獅子舞

- ・映像を制作し、若い世代に将来的に利用してもらいたい。
- ・「吉岡町の獅子舞」として他団体と一緒にの YouTube は配信されています。できれば単独の動画を撮って編集し、YouTube にて公開したい。現場スタッフの思いを込めた個性的な動画を作りたい。
- ・練習や発表以外になかなか保存会内で人が集まって活動することが難しい。
- ・適材な人材及び機材等がない。
- ・システムに明るい人がいなく難しい。
- ・人材不足と道具の見栄が心配です。
- ・現在、私自身は各種団体の会長、副会長が大変多くて、身動き（活動）ができない。忙しすぎる。中心的に活動してくれる人たちは会社等で管理職であり、夜も忙しくて大変である。
- ・動画を公開したからといって、入会希望者が現れるとは考えられないです。

■神楽

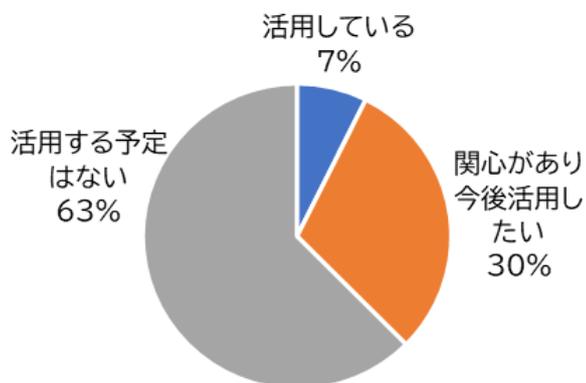
- ・会員に打診中（ほか1団体）
- ・過去のデータを収集し内容を検討中
- ・市町村企画の動画撮影を予定
- ・保存会員の中で、今のところ動画撮影編集対処
- ・保存会及び会員の充実を図る事を優先したいところですが、動画講座が開催される折には参加したい。
- ・会員が多忙で時間の余裕がない。
- ・存続危機解消策にはならないため。

■祭り囃子

- ・希望したいが人材がいらない。（ほか1団体）
- ・郷土芸能発表会の際に記録動画を毎回作成
- ・DVD を作成済み。
- ・それなりに動画制作が得意な会員がいる。
- ・フルに働いているため時間が作りにくい。
- ・地理的・物理的要件から困難
- ・動画制作まで手が回らない。
- ・少人数でビデオを見るだけであり、今あるソフト利用で十分。

15. 情報発信について 【調査項目 Q10/1つ選択回答 n=136 団体】

SNS や動画配信サービス (Facebook、YouTube、Instagram など) を情報発信手段として団体活動に活用していますか？



SNS や動画配信サービス (Facebook、YouTube、Instagram など) を情報発信手段として団体活動に活用しているか尋ねたところ、「活用する予定はない」63%、「関心があり今後活用したい」30%、「活用している」7%である。活用していない主な理由は、高齢者では無理、特に必要性を感じていないなどである。一方で活動が順調にできるようになれば活用したい、若い人に活用させたいなどの意見もあった。

	計					計	
	人形芝居	歌舞伎	獅子舞	神楽	祭り囃子		
活用している	1団体	0団体	4団体	1団体	4団体	10団体	7%
関心があり、今後活用したい	4団体	0団体	15団体	12団体	10団体	41団体	30%
活用する予定はない	3団体	3団体	30団体	25団体	24団体	85団体	63%
計	8団体	3団体	49団体	38団体	38団体	136団体	100%

	活動が順調な団体	活動が順調ではない団体	回答なし	計	
活用している	9 団体 10%	1 団体 3%	0 団体	10 団体	7%
関心があり、今後活用したい	30 団体 31%	9 団体 24%	2 団体	41 団体	30%
活用する予定はない	57 団体 59%	27 団体 73%	1 団体	85 団体	63%
計	96 団体 100%	37 団体 100%	3 団体	136 団体	100%

SNS は、人とつながる情報発信ツールとして多くの人に浸透している。SNS のメリットは、知人だけでなくつながりのない第三者にも情報発信できることである。地域の祭り行事や伝統芸能の良さを広めたいと考えたときに SNS でうまく情報発信でき拡散されることになれば、その良さや魅力に気づく人が増えることになるので、活用を検討いただきたい。

【取り組んでいる団体紹介】

■Facebook

- 千本木龍頭神舞保存会 (伊勢崎市)

<https://www.facebook.com/senbongi.ryutoushinmai/>



■Instagram

- 高崎山車祭り保存会 (高崎市)

<https://www.instagram.com/takasaki.matsuri/>



主なご意見（できる限り原文のまま記載する）

■人形・歌舞伎

- ・特にありません

■獅子舞

- ・公式LINEがある。保存会員の連絡用に使用している。（ほか1団体）
- ・獅子舞の奉納の動画は藤岡市のホームページに掲載している。
- ・特に必要性を感じておりません。
- ・保存会内でそのような話がされていないので今のところ何ともいえません。
- ・SNSを活用したいとは考えているが、会員の高齢化に伴い、僅かな人に負担がかかる。

■神楽

- ・小さい地域で活動している団体としては、補助金よりも伝統文化と呼ばれるよりも、活動を続けている事をアピールしてほしい。
- ・高齢会員は無関心ですが、数名の若い会員は開いており、情報を得ているはず。
- ・何も活用してない。もし活用するなら費用面はどうか。わからない。教えてください。
- ・今私はSNSや動画配信サービスとかは何もできません。若い者に代われば色々情報が得られ、変わってくると思う。
- ・若い人に後をゆずって、それらを活用させたいが、ボランティアゆえなかなか若い人がいない。
- ・手掛ける人がいない。（ほか2団体）
- ・管理する者がいない。
- ・高齢者では無理

■祭り囃子

- ・個々に活用している会員もいると思う。
- ・団体活動ができるようになれば色々活用したい。
- ・パソコンが苦手なのでわからない。
- ・ホームページなど作るのは簡単だが、それを維持や更新できるか不安がある。
- ・個人情報など守り切れないような気がする。

【取り組んでいる団体紹介】

■ホームページ

- ・天王寺宿祇園囃子を守る会（邑楽町）
<http://park12.wakwak.com/%7Etenno-motojuku5/>



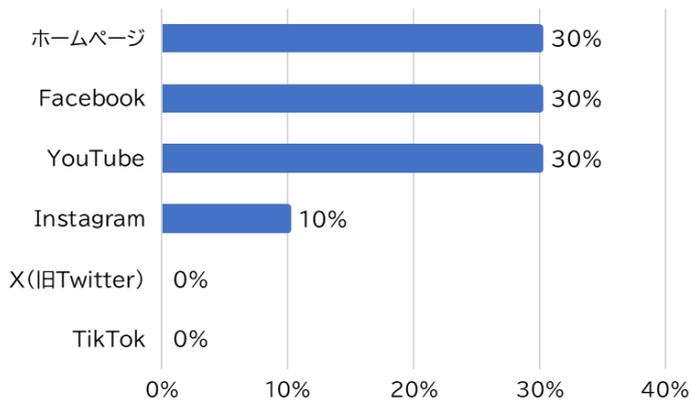
■YouTube

- ・鬼石祭り囃子保存会（藤岡市）
<https://www.youtube.com/@user-vg8gz6rr9b>



16. 情報発信の手段について 【調査項目 Q10-②/複数回答 n=10 団体】

現在活用している SNS や動画配信サービスについて教えてください。



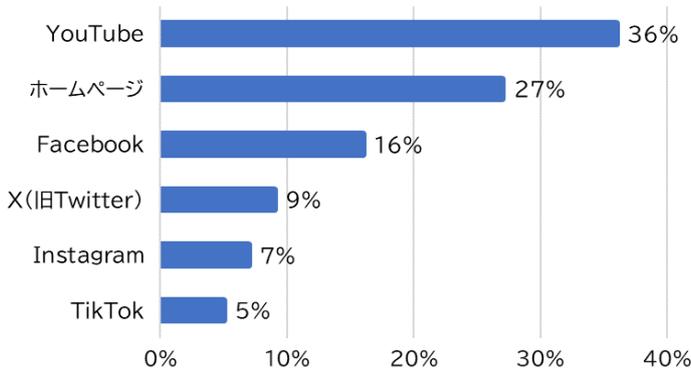
現在活用している情報発信手段 (SNS や動画配信サービス) について複数回答で尋ねたところ、10 団体から回答があった。
 具体的にはホームページ、Facebook、YouTube を活用しているが各 3 団体、Instagram の活用が 1 団体である。

	計					計	割合
	人形芝居	歌舞伎	獅子舞	神楽	祭り囃子		
ホームページ	0 団体	0 団体	0 団体	0 団体	3 団体	3 団体	30%
Facebook	0 団体	0 団体	1 団体	0 団体	2 団体	3 団体	30%
YouTube	0 団体	0 団体	2 団体	0 団体	1 団体	3 団体	30%
Instagram	0 団体	0 団体	0 団体	0 団体	1 団体	1 団体	10%
X(旧Twitter)	0 団体	0%					
TikTok	0 団体	0%					
計	0 団体	0 団体	3 団体	0 団体	7 団体	10 団体	100%

	活動が順調な団体		活動が順調ではない団体		回答なし	計	割合
	団体数	割合	団体数	割合			
ホームページ	2 団体	23%	1 団体	100%	0 団体	3 団体	30%
Facebook	3 団体	33%	0 団体	0%	0 団体	3 団体	30%
YouTube	3 団体	33%	0 団体	0%	0 団体	3 団体	30%
Instagram	1 団体	11%	0 団体	0%	0 団体	1 団体	10%
X(旧Twitter)	0 団体	0%	0 団体	0%	0 団体	0 団体	0%
TikTok	0 団体	0%	0 団体	0%	0 団体	0 団体	0%
計	9 団体	100%	1 団体	100%	0 団体	10 団体	100%

17. 今後活用したい情報発信の手段について【調査項目 Q10-②/複数回答 n=43 団体】

今後活用したい SNS や動画配信サービスについて教えてください。



今後活用したい SNS や動画配信サービスについて複数回答で尋ねたところ、「YouTube」が36%と最も高く、次いで「ホームページ」27%、「Facebook」16%などとなった。

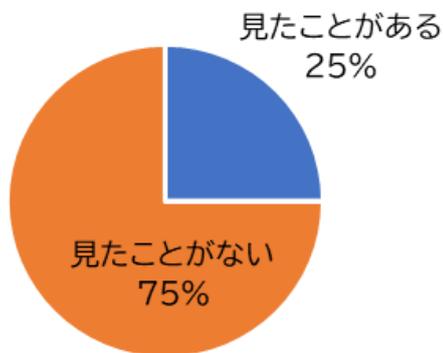
	計					計	割合
	人形芝居	歌舞伎	獅子舞	神楽	祭り囃子		
YouTube	0団体	0団体	6団体	5団体	5団体	16団体	36%
ホームページ	1団体	0団体	5団体	4団体	2団体	12団体	27%
Facebook	0団体	0団体	2団体	2団体	2団体	6団体	16%
X(旧Twitter)	0団体	0団体	2団体	1団体	1団体	4団体	9%
Instagram	0団体	0団体	2団体	0団体	1団体	3団体	7%
TikTok	0団体	0団体	1団体	0団体	1団体	2団体	5%
計	1団体	0団体	18団体	12団体	12団体	43団体	100%

	活動が順調な団体		活動が順調ではない団体		回答なし	計	割合
	団体数	割合	団体数	割合			
YouTube	11 団体	37%	5 団体	38%	0 団体	16 団体	36%
ホームページ	7 団体	23%	5 団体	38%	0 団体	12 団体	27%
Facebook	6 団体	20%	0 団体	0%	0 団体	6 団体	16%
X(旧Twitter)	3 団体	10%	1 団体	8%	0 団体	4 団体	9%
Instagram	2 団体	7%	1 団体	8%	0 団体	3 団体	7%
TikTok	1 団体	3%	1 団体	8%	0 団体	2 団体	5%
計	30 団体	100%	13 団体	100%	0 団体	43 団体	100%

YouTube は、手持ちのスマートフォンで手軽に動画を見ることが出来るため、情報発信の手段として推奨したい。

18. WEB サイト「ぐんま地域文化マップ」について【調査項目 Q11/1 つ選択回答 n=136 団体】

群馬県教育文化事業団が運営する WEB サイト「ぐんま地域文化マップ」を見たことがありますか？



群馬県教育文化事業団が運営する WEB サイト「ぐんま地域文化マップ」の閲覧について尋ねたところ、「見たことがない」が 75%で、「見たことがある」は 25%である。

	計					計	
	人形芝居	歌舞伎	獅子舞	神楽	祭り囃子		
見たことがある	2団体	1団体	8団体	8団体	15団体	34団体	25%
見たことがない	6団体	2団体	40団体	32団体	22団体	102団体	75%
計	8団体	3団体	48団体	40団体	37団体	136団体	100%

	活動が順調な団体	活動が順調ではない団体	回答なし	計	
見たことがある	25 団体 26%	8 団体 21%	1 団体	34 団体	25%
見たことがない	70 団体 74%	30 団体 79%	2 団体	102 団体	75%
計	95 団体 100%	38 団体 100%	3 団体	136 団体	100%

主なご意見（原文のまま記載する）

- ・ 今後とも活動継続のための各種情報発信等のご指導ください。
- ・ 開催日の詳細や確実な問い合わせ先を掲載して欲しい。



県内各地の伝統芸能や祭り行事の情報をお手持ちのスマートフォンやパソコンなどから検索することができます。また、祭り行事などの情報発信（無料）もできますので、ぜひ団体の情報（祭り行事の名称、場所、日時など）を当事業団までお寄せください。

（問合せ：事業支援課 ☎027-243-7200）



ぐんま地域文化マップ

19. 課題・要望について【調査項目 Q12／自由回答】（できる限り原文のまま記載する）

■人形芝居

○後継者の育成

- ・群馬県教育文化事業団やぐんま郷土芸能助っ人塾の応援、支援をいただき、現在順調に団体活動や後継者の育成を進めることができいております。しかし、少子高齢化は避けられず、年々公演活動が衰退していることは否めません。伝統芸能（当団体の場合は人形芝居）の魅力を若い人達に知ってもらうために、学校訪問や体験の機会を増やすなど、今後積極的に継承に動く必要を感じます。当座では体験学習を定期的に関く、文楽の鑑賞会、地域コミュニティーセンターへの呼びかけなど行政・地域・学校に協力いただき、伝統芸能を推進して行きたいと思っております。伝統芸能の魅力発信に今後も支援賜れば幸いです。

○他団体との交流

- ・昨今、伝統芸能に関わる若手を集めて「桜枝岐歌舞伎舞台」の視察研修会が行われたようですが、文楽鑑賞会とか長野県の「いいだ人形フェスタ」鑑賞など他方での郷土芸能などに触れる機会を設けていただくとありがたいです。また、そういった企画に援助いただくのも後継者育成につながるのではないのでしょうか。

■歌舞伎

○後継者の育成

- ・ここ数年で会員が病気等で亡くなり、団体の維持が大変になってきた。また、あまり若い人は稽古時間が取れない。まずは交流の場を作り歌舞伎の面白さを知ってもらいたい。

■獅子舞

○後継者の育成

- ・効率的な伝承方法について。
- ・若手後継者の発掘、育成が一番の課題です。
- ・コロナ休止で、忘れていた技能をキャッチアップに取り組み中。今年の祭りの規模を検討中。
- ・こうしたら若い人が興味を持ってくれたよ、という感じのアイデアですかね。

○伝統芸能への関心

- ・子ども（後継者）の参加とその保護者の理解が足りないように思います。獅子舞だけでなく地域の文化や教育などが必要だと思っておりますが、良い方法がなかなか見つかりません（個人的な意見です）。
- ・地域住民の協力が得られない事が課題となっている。本来、当獅子舞は地域の区が運営主体となって古くから行われてきましたが、運営の効率化のため、区の役員会より独立して運営を行って来ましたが、これらの事情が区の役員に引き継がれず、保存会が孤立をしてしまい、現在に至って活動の休止を決断する事となりました。

○発表の場

- ・他団体との発表会の場を企画していただきありがとうございました。県でのイベント等で発表できればと思います。それと県に従事している外国人に県の伝統文化を見てもらえるような企画。無理な要望かもしれませんが、検討していただけたらと思います。

- ・今年9月2日（土）に「受け継がれる群馬の獅子舞」が開催され、私たちの会も出演させていただきました。これは、獅子舞関係者にとっては大いに有意義なことです。このような催しを県内各地（中毛・北毛・東毛・西毛地域）で開催していただくと素晴らしいと考えます。講演と実演、ワークショップは大変よい着想です。基調講演のほかに獅子舞関係者のシンポジウムがあってもよいかと思えます。そして、各地の獅子舞の実演を観ることができるのは、各地の関係者にとって得がたい機会となると思われまます。

■神楽

○後継者の育成

- ・仲間との交流を続けたいし、伝承芸能を途切れさせたくない。
- ・約230年余の歴史ある御神楽であり、止めることはできない。やり方を模索したい。
- ・私の会長時代で終わりたい！！切実。本年は町の自治会長の計らいで出演場所を数か所設営していただき、神楽師全員燃えています。
- ・御神楽奉納は三夜沢赤城神社例大祭の御神事です。赤城神社の太々神楽は、社家年代記によると岩戸神楽の系統で、貞享元年（1684年）に、京都より伝承したものとされている。令和5年は340年目でした。伝統を継承する事。神社関係者（宮司、総代会）と今後のこと等確認をとり進めていきたい。
- ・チラシの作成や声かけをしているが、なかなか興味を示す若者がいない。何とか若者を誘って神楽を続けていきたい。可能な限り。ここで終わりにしたくない。8人みんなの願いです。
- ・次の世代に人を求める時がやって来た様な気がする。今、舞っている人は70歳が上で50歳に近い人が若い人。甘楽町では元気な方に入るかな。イタリアに何年前に親善交流のため、町代表で行っていただきました。チェルタルド姉妹都市関係でまとまりがある地区ですが、最近是個が優先する空気が強い。

○伝統芸能への関心

- ・一般的に伝統芸能は地域性が地理的に狭く、独自の特徴や個性があり、常態化してきた高齢化や継続問題に対する解決策は一元的なものではないと考えます。国民・県民の郷土芸能の文化的な重要性について、再認識させる風潮を創り出す必要性を感じます。個性の尊重は大事ですが、他人に関与しないような考え方の方向へ進んでいるようにも散見できます。伝統芸能の健全な継続は、地域が一体となって絆を深め合うことに繋がっていることなど、価値観の変化を醸成させるような、外側からの支援や施策に期待したい。

■祭り囃子

○後継者の育成

- ・従来、祇園祭りのお囃子演奏は、子ども達への情操教育として教えていました。市の方針により合区になり、どのように進めていったら良いのか検討中です。
- ・後継者の問題は難しいと思います。県や市が呼び掛けても地元の祭りは地域の垣根を越えられず、他人が入って来るのが難しかったりします。歴史ある祭りなので、がんばって残していこうと思っています。
- ・笛の技術力を向上させたい。現在3名の担当と小学6年生1名が練習に励んでいるが、組織内での練習の他、プロの指導を受ける機会をもうけることが課題です。

- ・現状を考えると太鼓の練習等、近所の騒音問題が出てくると考えます（住宅化）。また、子ども達の減少も歯止めがかからず、規模の縮小も視野に入れて伝統行事を守っていきたいと思います。
- ・3年間の活動が中止になったため、特に初めて祇園ばやしに参加する小学生低学年は全く練習をする機会が少ない。祇園囃子の伝承に支障を生じている。それを補うため、若手は指導、協力に尽力しており、敬意を表したいと思います。
- ・私たちの団体だけかもしれませんが、役員のみ手がないことが一番です。私も会長という役職を1年半おこなっております。2年で交替になりますが、仕事をしているため会社には大変ご迷惑をかけております。他の団体はどのような形で進めているか知りたいです。他地区の団体でも役員のみ手がない、やめていることを時々聞きます。何か対策は必要ではないでしょうか。ご検討よろしくお願ひ申し上げます。
- ・子ども達の士気を高めるためにも夏祭りに参加したいが、いくつかの問題点があり、話し合いをするが解決策がまとまらず、結局不参加になってしまう。地域の高齢化や子どもの減少、祭り当日の駐車場の確保が難しい事から屋台の曳き手が集まらず、会場でトラック屋台を巡行するのが困難。どこかグループ分けをしても良いから、ずっと留まって演奏できる会場があると有難い。またはエンジンをかけて走行できると有難い。また、祭り会場から遠いのでどうしても参加者が車移動となるので駐車場が少なくストレスが大きい。レンタカーや大きな自家用車で参加者をピストンで送迎する事も考え、組にわりふられた駐車スペースが5台程ほしい。
- ・これからの群馬の地域文化振興は、山間部の過疎化地区の伝統芸能文化の保存・継承にかかっていると思います。県、市町村の文化財保護課のバックアップは必ずしも充分であると思いません。県教育文化事業団のより一層の支援をお願いします。

3 調査結果まとめ

1. 伝統芸能団体のコロナ禍の影響

約3年半の間に及ぶコロナ禍で、県内の伝統芸能団体の97%が活動に影響があったと回答している。コロナ禍での祭り行事等の中止は、単なる発表の場や機会の制限のみならず、練習も実施できなかったことから、活動団体の参加者減少やモチベーションの低下など会員への影響はもちろんであるが、後継者育成の観点では、子どもたちが参加する活動が2年以上出来なかったことから貴重な初めての体験時期を逸してしまった影響は大きいと言われている。その主な影響は、次のとおりである。

- ・発表機会の制限（公演や祭り行事の縮小・中止）
- ・練習機会の制限
- ・交流機会の減少（会議、新年会、他団体との交流）
- ・会員の高齢化、脱退
- ・後継者育成の中断（子ども、新規会員など）
- ・伝統芸能に対する気持ちや意欲の低下
- ・技術の低下
- ・演目の減少、簡素化

2. 団体の活動状況と課題

新型コロナウイルス感染症の法律上の扱いが令和5年5月8日からインフルエンザと同じ扱いに引き下げられ、現在の活動状況は団体の69%が順調である。令和5年度の祭り行事も団体の81%が開催しており、伝統芸能団体の活動も順調に行えるようになってきている。しかしながら、伝統芸能の課題である後継者育成は、団体の67%が順調ではない。また、団体の約5年後の活動見通しも56%が順調ではないと回答していることから、伝統芸能の継承の難しさがあらためて顕在化することになった。その主な要因は、次のとおりである。

- ・人口減や少子化、若者流出による「地域の過疎化」
- ・会員の高齢化と減少、新規加入者が少ないことによる「担い手不足」
- ・団体と地域との「協力関係の希薄化」
- ・生活環境の変化や価値観の多様化による「伝統芸能への関心の薄れ」

3. 団体の新たな取組み

コロナ禍で活動が制限される中、継承に向けて新たな工夫を取り組む団体もあった。その取組み例は、次のとおりである。

- ・会員の募集（チラシ作成）
- ・SNSの活用（ホームページ、YouTube）
- ・笛譜の作成、笛指導用のビデオ作成
- ・お囃子教室の開催
- ・道具の点検、修理
- ・早わかり小冊子の作成（神楽）
- ・保存会関係資料の整理
- ・紙芝居の作成（神楽）

- ・映像のDVD化（神楽：奉納舞の動画）
- ・新曲の練習（祭り囃子）
- ・演じていない演目に挑戦（神楽）
- ・屋台囃子とギターのコラボ音楽の作成（振り付けあり）
- ・高校生との連携（神楽の笛・太鼓の応援）
- ・小学校との連携（人形芝居クラブ）
- ・大祭日の変更（4月8日→4月8日に近い日曜日）

4. 団体の要望

各地で受け継がれてきた伝統芸能を継承するために、団体が要望する内容は次のとおりである。

- ・担い手の確保
- ・後継者育成の方策（子ども）
- ・指導者育成の方策（専門的知識、ノウハウ）
- ・小中学校との連携（授業、クラブ活動）
- ・道具の新調、修理、情報（補助金、修理業者、購入先）
- ・活動運営費の補助
- ・映像記録の作成
- ・講習会の実施（篠笛）
- ・公演機会の充実
- ・相談窓口の設置
- ・他団体との交流や情報交換
- ・伝統芸能への関心の向上

4 伝統をつなぐための提案

伝統芸能には、地域の歴史や文化を伝える重要な役割があり、その伝承は地域のアイデンティティの形成にもつながっている。しかし、長い年月の経過とともに、社会経済情勢も大きく変化する中で就業構造の変化や少子高齢化による担い手不足、地域のつながりの希薄化、娯楽の多様化による関心の低下等によりその存続が困難になっている。伝統芸能は人から人へ伝承するため、担い手がいなくなることによってその技術や知識が失われ、消滅してしまう可能性がある。

当事業団では、県や市町村など関係機関と連携し、各団体のニーズを踏まえて、県内地域で受け継がれてきた貴重な伝統芸能の様々な継承活動を応援し、団体の支援と魅力発信に努めたい。

団体自らの取組み

1. 後継者の確保と育成

伝統芸能は、限られた地域の人たちだけで伝承されてきたが、転出や少子化などによる人口減が顕著になっていることから従来通りの考え方で担い手を確保することは困難となっており、これまでの考え方を柔軟に変えていくことも含めて積極的な対策を進めていくことが重要である。また、社会の変化に合わせて古くからの習わしを変え、地域や性別、年齢、国籍を問わないなど参加制限を出来るだけなくし、担い手の幅を広げること等も検討する必要があると思われる。

2. 若い世代への発信強化

各地域で行われる祭り行事のイベント PR や SNS を活用した情報発信、動画による PR など積極的な発信が必要である。

特に次世代の担い手となる子どもたちが伝統芸能に親しむ体験の場を確保し、子どもたちや保護者等に伝統芸能への関心を高める情報発信の強化が求められる。

団体支援

1. 発表機会の充実

団体に継承地域の定例行事以外の地域枠を越えた発表機会を充実することで、練習や活動への意欲と技術の向上を図り、団体間の相互交流や情報交換の場を広げる。また、団体活動の継続・拡充のために適切な相談対応を適宜行いたい。

2. 公的支援の充実

活動に必要な道具等の修理や新調のための財政支援をはじめ、舞台大道具等の確保や設置、舞や囃子等の技術向上や後継者育成のための研修・講習会、伝統芸能の理解促進にかかる講座開催、地域の祭り行事の周年事業にかかる支援など団体に寄り添った支援内容を検討し、県と連携して「群馬のふるさと伝統文化」支援事業補助金を活用した支援を行いたい。また、継承に向けた取組みについて情報提供を行い、意欲的な継承活動を応援したい。

3. 活動を支えるボランティア組織の育成

歌舞伎や人形芝居などの伝統芸能は舞台設営が大掛かりであり、座員の減少や高齢化など課題を抱える中で活動が困難になってきている。既存のサポーター団体の活動の充実を図りながら、伝統芸能に興味のある方と団体をつなぎ、地域住民の枠を越えて活動を支える県民サポーターを育成することで団体活動を支え、伝統芸能への関心を高め、支援者を増やしたい。

また、地域や市町村との連携に加えて県内企業等とパートナーズ制度の構築なども視野に、幅広い支援の仕組づくりに取り組みたい。

魅力発信

1. 鑑賞と体験の場の提供

伝統芸能に馴染みのない子どもや若い世代等に様々な伝統芸能を紹介し、興味関心を促すために鑑賞や体験を通じた交流機会を設ける。また、伝統芸能の地域や枠などを越えた異ジャンルの伝統芸能イベントや、異分野の芸術文化とのコラボレーションによる新しい伝統芸能の魅力等を発信する場を提供したい。

2. 学校（小中学校・高校・大学）との連携

希望する県内の小中学校、高校、大学と伝統芸能をマッチングし、子どもたちが鑑賞や体験を交えた学習や研究する機会を推進し、伝統芸能に興味関心を持ってもらう交流事業に協力したい。

- ・小学校：地域の祭り行事や伝統芸能を系統性に生かした学習（社会・総合的な学習）やクラブ活動
- ・中学校：部活動の地域移行の中で、伝統芸能をメニューとして取り込む（団体が指導者）
- ・高校：探求的学習の時間での伝統芸能の学びと実践
- ・大学：伝統芸能をテーマとした歴史・文化・地域経済面からの研究や市民公開講座等による理解拡大

3. 地域を越えた交流や情報発信

伝統芸能の地域を越えた交流や、地域の情報発信の貴重なツールとして伝統芸能を活用していくことが大切である。

- ・地元住民と他地域住民との交流の場として、伝統芸能の鑑賞や体験の場を活用すること
- ・都市間交流などにおいて互いの地域に継承されている伝統芸能に触れる機会を確保すること
- ・旅行者等にも地域資源として気軽に鑑賞や体験できる場を提供し、その情報を発信すること

4. アーカイブ作成・情報発信

動画制作を希望するが、担い手や機材がないこと等から取組めない団体が多くあるため、団体の意向をもとに伝統芸能のアーカイブ映像作成に取り組み、また SNS を活用した団体活動の紹介や地域内外に広く周知することで県内の伝統芸能の存在価値を発信したい。

5. 伝統芸能団体の表彰

伝統芸能への関心が薄れる中、伝承活動に取り組む団体の継承意欲を高めるために次世代への継承活動が特に優れ、他の模範と認められる個人及び団体を表彰することにより、県民の伝統芸能に対する認識を高めたい。

5 調査協力団体

1. 人形芝居

No.	伝承団体	市町村
1	下長磯操翁式三番叟保存会	前橋市
2	込皆戸三番叟保存会	前橋市
3	沼須人形芝居保存会	沼田市
4	津久田人形操作伝承委員会	渋川市
5	八城人形浄瑠璃城若座	安中市
6	尻高人形	高山村
7	唐堀人形芝居遊楽座	東吾妻町
8	下牧人形芝居保存会	みなかみ町

2. 歌舞伎

No.	伝承団体	市町村
1	半田歌舞伎坂東座	渋川市
2	渋川歌舞伎	渋川市
3	渋川子ども歌舞伎	渋川市

3. 獅子舞

No.	伝承団体	市町村
1	立石獅子舞保存会	前橋市
2	大前田諏訪神社獅子舞保存会	前橋市
3	月田近戸神社獅子舞保存会	前橋市
4	貝沢西組獅子舞保存会	高崎市
5	田子屋獅子舞保存会	高崎市
6	飯塚町獅子舞保存会	高崎市
7	台新田町獅子舞保存会	高崎市
8	剣崎町獅子舞保存会	高崎市
9	川浦獅子舞保存会	高崎市
10	諏訪土俵獅子舞保存会	高崎市
11	駒寄一五沢獅子舞保存会	高崎市
12	神山下町・新井田中獅子舞保存会	高崎市
13	斎渡北野神社獅子舞保存会	高崎市
14	宮谷戸獅子舞保存会	高崎市
15	多比良谷獅子舞保存会	高崎市
16	馬庭飯玉神社獅子舞保存会	高崎市
17	多比良谷獅子舞保存会	高崎市
18	下滝町獅子舞保存会	高崎市
19	上中居獅子舞保存会	高崎市
20	前田原獅子舞保存会	桐生市

No.	伝承団体	市町村
21	千本木龍頭神舞保存会	伊勢崎市
22	国定赤城神社獅子舞保存会	伊勢崎市
23	東新井獅子舞保存会	伊勢崎市
24	新井八幡宮獅子舞保存会	太田市
25	堀口獅子舞保存会	太田市
26	新田赤堀獅子舞保存会	太田市
27	行幸田甲波宿禰神社獅子舞保存会	渋川市
28	箱田獅子舞保存会	渋川市
29	下大塚獅子舞保存会	藤岡市
30	森獅子舞保存会	藤岡市
31	寺山獅子舞保存会	藤岡市
32	神田獅子舞保存会	藤岡市
33	稲荷下り葉流宇田獅子舞保存会	富岡市
34	下高尾獅子舞保存会	富岡市
35	中里獅子舞保存会	富岡市
36	上丹生下組獅子舞保存会	富岡市
37	上南蛇井獅子舞保存会	富岡市
38	中野殿獅子舞保存会	安中市
39	上磯部獅子舞保存会	安中市
40	上増田獅子舞保存会	安中市
41	新田無形文化財保存会	安中市
42	小中獅子舞保存会	みどり市
43	下八幡宮獅子舞保存会	吉岡町
44	溝祭獅子舞保存会	吉岡町
45	蒔田区獅子舞保存会	下仁田町
46	天引獅子神楽舞保存会	甘楽町
47	那須獅子舞保存会	甘楽町
48	二ツ石組獅子舞保存会	甘楽町
49	下沢渡獅子連	中之条町
50	柴宮神社芸能保存会	中之条町
51	駒岩獅子舞保存会	中之条町
52	長野原文化会	長野原町
53	四戸獅子舞保存会	東吾妻町
54	大戸獅子舞保存会（古賀良神社）	東吾妻町
55	大戸獅子舞保存会（畔宇治神社）	東吾妻町
56	羽場日枝神社獅子舞保存会	みなかみ町
57	飯野本村獅子舞保存会	板倉町

4. 神楽

No.	伝承団体	市町村
1	春日神社太々神楽保存会	前橋市
2	植野稲荷神社太々神楽保存会	前橋市
3	上新田町雷電神社太々神楽保存会	前橋市
4	駒形町太々神楽保存会	前橋市
5	三夜沢赤城神社太々神楽保存会	前橋市
6	八幡八幡宮大々神楽保存会	高崎市
7	烏子稲荷神社太々神楽保存会	高崎市
8	倉賀野神社附属太々神楽保存会	高崎市
9	椿名神社太々神楽保存会	高崎市
10	金古諏訪神社神楽保存会	高崎市
11	賀茂神社太々神楽保存会	桐生市
12	薄根太々神楽硯田保存会	沼田市
13	大島岡里敬神講	館林市
14	村上太々神楽保存会	渋川市
15	神明宮太々神楽保存会	渋川市
16	富士浅間神社太々神楽保存会	藤岡市
17	本郷下郷太々神楽保存会	藤岡市
18	鬼石神社太々神楽保存会	藤岡市
19	御倉御子神社太々神楽保存会	藤岡市
20	丹生神社神楽舞子連	藤岡市
21	藤木神楽保存会	富岡市
22	黒川御神楽	富岡市
23	鷲宮太々神楽保存会	安中市
24	土塩三区太神楽保存会	安中市
25	八幡神社太々神楽講	榛東村
26	乃久里神楽保存会	上野村
27	大山神楽保存会	甘楽町
28	天引諏訪神社獅子神楽舞保存会	甘楽町
29	金光山白倉神社太々神楽保存会	甘楽町
30	柴宮神社芸能保存会	中之条町
31	四万太々神楽保存会	中之条町
32	諏訪神社太々神楽保存会	中之条町
33	下折田太々神楽保存会	中之条町
34	伊勢町郷土芸能保存会	中之条町
35	中之条伊勢宮芸能保存会	中之条町
36	矢倉鳥頭神社太々神楽保存会	東吾妻町
37	熊野講社太々神楽保存会	東吾妻町
38	三島鳥頭神社太々神楽保存会	東吾妻町
39	吉岡神社神楽会	東吾妻町
40	小川神社太々神楽保存会	みなかみ町
41	谷川富士浅間神社太々神楽保存会	みなかみ町
42	粟沢武尊神社太々神楽保存会	みなかみ町
43	高鳥天満宮太々の会	板倉町
44	吉田西里神楽保存会	大泉町
45	邑楽町里神楽獅子舞保存会	邑楽町

5. 祭り囃子

No.	伝承団体	市町村
1	東片貝町祇園囃子保存会	前橋市
2	六供町おはやし保存会	前橋市
3	住吉町一丁目おはやし保存会	前橋市
4	大友町祭り囃子保存会	前橋市
5	高崎山車祭り保存会	高崎市
6	茂呂町一丁目屋台囃子保存会	伊勢崎市
7	茂呂町二丁目屋台囃子保存会	伊勢崎市
8	美茂呂町屋台囃子保存会	伊勢崎市
9	南北千木町屋台囃子保存会	伊勢崎市
10	茂呂南町屋台囃子保存会	伊勢崎市
11	馬見塚三ツ橋町屋台囃子保存会	伊勢崎市
12	三ツ木祭礼囃子保存会	伊勢崎市
13	栄町祭囃子保存会	伊勢崎市
14	女塚祭礼囃子保存会	伊勢崎市
15	宿波志江組屋台囃子保存会	伊勢崎市
16	中野面組屋台保存会	伊勢崎市
17	下波志江組屋台・囃子保存会	伊勢崎市
18	村田祇園囃子保存会	太田市
19	下新田囃子保存会	太田市
20	世良田祇園囃子保存会	太田市
21	今井区おはやし同好会	太田市
22	新町区囃子保存会	太田市
23	本町一丁目自治会	館林市
24	朝日町南区	館林市
25	渋川梅笛祇園囃子保存会	渋川市
26	鬼石祭囃子保存会	藤岡市
27	鷹匠町祭囃子保存会	藤岡市
28	仲町祭囃子保存会	藤岡市
29	安中市原市第2区	安中市
30	上野尻祭典委員会（上組囃子連）	安中市
31	大間々おはやし保存会連絡協議会 第六区おはやし保存会	みどり市
32	吉岡町大久保屋台囃子保存会	吉岡町
33	東町祭典委員会	下仁田町
34	吉崎祭典委員会	下仁田町
35	中之条地区第5区（田町）	中之条町
36	中之条地区第6区（宮元町）	中之条町
37	中之条地区第8区（仲之町）	中之条町
38	中之条地区第10区（堅町）	中之条町
39	中之条地区第11区（王子町）	中之条町
40	角洲祇園祭保存会	玉村町
41	中谷おはやし保存会	明和町
42	天王元宿祇囃子を守る会	邑楽町

令和5年度伝統文化継承事業
第2回ぐんまの伝統芸能アンケート調査報告書

発 行 公益財団法人群馬県教育文化事業団
住 所 〒371-0801 群馬県前橋市文京町 2-20-22
発行日 令和6年6月28日発行